

地域保育学科

2019 年 7 月 3 日 更新

科 目 名	日 本 国 憲 法		単 位 数	2	実務経験	担当教員	ひらた　　よういち 平田　　陽　一
ナシバ・リンカ・コート	PUL21101		授業形態	講義	有・無		
授 業 の 内 容	私達の国家は市民の良識により公正な社会を作ることを目指している（民主制）。この目的を実現するために政府を作り、そして政府の守るべき規範として制定された法が憲法である。この視点から憲法の基本的な考え方を説明する。						
到 達 目 標	1．憲法が制定された目的を理解している。 2．憲法が前提としている「自律した市民」としての自覚を身に付けている。 3．自己の判断により国の政策を選択することができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・④・⑤・6・7）地域保育学科（1・2・3・④・⑤）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	憲法について（憲法は政府の守るべき法であること）	予習	憲法の前文を読んでおく		
				復習	憲法の目的を理解する		
	第 2 回	内容	近代立憲主義（憲法が政治権力の濫用を防止するための法であること）	予習	憲法第 10 章を読んでおく		
				復習	憲法の基本原則を理解する		
	第 3 回	内容	近代国家と憲法（政府の役割が国民の人権の保障であること）	予習	近代国家の性質を調べる		
				復習	憲法上の国家を理解する		
	第 4 回	内容	平和主義（国際紛争を平和的手段で解決するということ）	予習	憲法第 2 章を読んでおく		
				復習	戦争の放棄の意味を考える		
	第 5 回	内容	国民主権主義（国家の政策は国民が決めるということ）	予習	憲法の前文、第 1 条、第 96 条を読んでおく		
				復習	国民主権の現状を考える		
	第 6 回	内容	人権尊重主義（政府は国民の人権を侵害してはならないということ）	予習	市民社会と市民の意味を調べる		
				復習	人権規定の存在理由を理解する		
	第 7 回	内容	権力分立主義（政治権力の濫用を防止するために政治権力を分割するということ）	予習	国会、内閣、裁判所の権限を調べる		
				復習	権力分立主義の現状を考える		
	第 8 回	内容	人権（人間が人間として生まれながらに当然有する権利であること）	予習	憲法第 3 章を読んでおく		
				復習	自然法思想について考える		
	第 9 回	内容	自由権（政府の人権侵害からの国民の自由について）	予習	一般的な意味の自由を調べる		
				復習	憲法の保障する自由を理解する		
	第 10 回	内容	社会権（国民の人権を実現するために政府のなすべきことについて）	予習	平等と自由の関係を調べる		
				復習	福祉国家を考える		
	第 11 回	内容	参政権など（国民の意思の表明などについて）	予習	民主主義の意味を調べる		
				復習	主権者としての国民を考える		
	第 12 回	内容	立法機関（国会の役割について）	予習	憲法第 4 章を読んでおく		
				復習	代表民主制について考える		
	第 13 回	内容	行政機関（内閣の役割について）	予習	憲法第 5 章を読んでおく		
				復習	議員内閣制を考える		
	第 14 回	内容	司法機関（裁判所の役割について）	予習	憲法第 6 章を読んでおく		
				復習	司法審査制を考える		
	第 15 回	内容	憲法の現代的諸問題	予習	現在の政治問題を調べる		
				復習	憲法の視点から政治問題を考える		
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題に関する授業の復習を行う						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　％）、レポート・課題（60％）、作品・発表（　　％）、実技（　　％）、授業態度（40％）						
教科書	使用しない						
参考文献	特になし						
注意事項							

科 目 名	体育実技		単 位 数	1	実務経験	担当教員 しん どのぶゆき 新戸 信之
ナショナルリンクコート	DMB21101		授業形態	実技	有・無	
授 業 の 内 容	長寿社会において、生涯を通じて元気でイキイキと生活するためには、生き甲斐づくり、健康づくり、体力づくりが必要である。また、幼児教育の現場において職務を遂行するためには、自らの行動、防衛のためだけでなく、子どもを守るための体力も求められる。本授業では、内発的な動機付けとなる“楽しさ”や“面白さ”が内在する身体活動、即ちスポーツや運動遊びの基礎的な技術及び知識を習得することにより「生涯スポーツ」への契機を与えることをねらいとする。					
到 達 目 標	1. 生涯にわたる自らの豊かな人生、社会に貢献できるたくましい心と身体の必要性について理解している。 2. 自己の健康管理、維持・増進に取り組み得る技術及び知識を習得している。 3. 団生活に必要な規律を理解し、協調性、社会性を身につけている。 4. 幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得している。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（1 ②・3 ④⑤）文化表現学科（1・2・3・4）					
授 業 計 画	第 1 回	内容	アイスブレイキング・ゲーム	予習		
				復習		
	第 2 回	内容	ドッジビー、ドッジボール、インディアカ	予習		
				復習		
	第 3 回	内容	イニシアティブゲーム（※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 4 回	内容	ソフトレーボール、ビーチボール、インディアカ	予習		
				復習		
	第 5 回	内容	バレーボール	予習		
				復習		
	第 6 回	内容	アルティメット	予習		
				復習		
	第 7 回	内容	目隠しをする遊び（※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 8 回	内容	鬼ごっこ（※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 9 回	内容	伝承遊び（※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 10 回	内容	マット運動、跳び箱、平均台 （※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 11 回	内容	ボール遊び（※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 12 回	内容	フットサル	予習		
				復習		
	第 13 回	内容	バスケットボール	予習		
				復習		
	第 14 回	内容	縄遊び（※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 15 回	内容	リズム体操・レクダンスの創り方 （※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 16 回	内容	リズム体操・レクダンスの発表 （※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 17 回	内容	リズム体操・レクダンスの発表 （※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 18 回	内容	ミニ運動会企画（※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 19 回	内容	ミニ運動会（※グループワーク）	予習		
				復習		
	第 20 回	内容	バドミントン	予習		
				復習		

授 業 計 画	第 21 回	内容	スポーツ鬼ごっこ	予習	
				復習	
	第 22 回	内容	実技まとめ	予習	
				復習	
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。				
課題へのフィードバック					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：作品・発表（20％）、実技（20％）、授業態度（60％）				
教科書	なし （必要に応じ資料等を配布）				
参考文献	なし				
注意事項	1.実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 2.意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。				

科 目 名	体育講義		単 位 数	1	実務経験	担当教員	しん どのぶゆき 新戸 信之
ナソバ・リンク・コート*	DMB21102		授業形態	講義	有・無		
授 業 の 内 容	健康寿命の延伸に向けた取り組みが進められている昨今、これまでの「保健」の考え方から、積極的に健康をつくり出そうとする考え方が主流となりつつある。 本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことをねらいとする。						
到 達 目 標	1. 健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付ける。 2. 各年齢に適した食事や運動実践の方法について理解する。 3. 将来幼児教育者とし自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう基礎的知識を習得する。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科 ①②・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	受講上の留意事項について 現代社会と健康	予習	健康に関するニュースや話題を web 検索する		
				復習	健康についての考えをまとめる		
	第 2 回	内容	食事と健康	予習	1 週間の食事内容を記録する。		
				復習	食事バランスチェック表に記入する。		
	第 3 回	内容	心の健康	予習	現代社会における「こころの病気」について web 検索する。		
				復習	こころの病気とその特徴についてまとめる。		
	第 4 回	内容	青年期と性	予習	若年者の性感染症の現状について web 検索する。		
				復習	性感染症の種類と症状・予防についてまとめる。		
	第 5 回	内容	運動と健康	予習	「健康寿命」について web 検索する。		
				復習	ライフステージ別に適した運動についてまとめる。		
	第 6 回	内容	体力	予習	現代人の体力や運動能力が低下している原因について考察する。		
				復習	体力の分類を整理し、その必要性についてまとめる		
	第 7 回	内容	スポーツ傷害と応急処置	予習	身近なスポーツに潜む危険について考察する。		
				復習	スポーツに纏わる外傷や障害の症状及び応急処置についてまとめる。		
	第 8 回	内容	まとめ	予習	「体育嫌い」の原因について考察する。		
				復習	7 回分のノートを整理する。		
	第 9 回	内容		予習			
				復習			
	第 10 回	内容		予習			
				復習			
	第 11 回	内容		予習			
				復習			
	第 12 回	内容		予習			
				復習			
	第 13 回	内容		予習			
				復習			
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	小テスト終了後に解説をする。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（6 0％）＊授業内における小テスト、レポート・課題（2 0％）、授業態度（2 0％）						
教科書	『大学生のための体育講義－今日つくる未来・今日を生きる課題－（茗井香保里他、推敲舎）						
参考文献	『健康づくりのための運動科学』（鶴木秀夫編、化学同人）、『大学生の健康・スポーツ科学』（大学生の健康・スポーツ科学研究会編、道和書院）						
注意事項	授業時間内の飲食（ガム含む）とスマートフォンについては特に厳しく対処します。 ※1 月頃より実施						

科 目 名	地域保育基礎講座	単位数	2	実務経験	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文 他
ナソバ・リンク・コート*	EDU21101	授業形態	講義	①有・無		
授 業 の 内 容	本授業では、これから三年間の短大教育を始めるに当たって、必要な基礎学力や学ぶための姿勢について講義を行う。また、地域保育学科の理念を理解し、特色を持った保育者となるための教育も行う。後期は、公務員試験対策として基礎学力や一般教養についての具体的な学習を行う。					
到 達 目 標	1. 短期大学の学びを理解している。 2. 地域保育学科の教育理念を理解し、特色を持った保育者になることを目指している。 3. 発表を人前で行うことができる。 4. 公務員試験を合格することができる学力を有している。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科 ①② 3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授 業 計 画	第 1 回	内 容	オリエンテーション	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	資格取得必要事項の確認	
	第 2 回	内 容	学校施設紹介・図書館利用方法	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	授業内容の確認	
	第 3 回	内 容	学科長講話	予習	事前に伝える	
				復習	講話内容を整理する	
	第 4 回	内 容	ホームルーム	予習	事前に伝える	
				復習	担任の指導内容を整理する	
	第 5 回	内 容	発表について	予習	事前に伝える	
				復習	発表のための本を読む	
	第 6 回	内 容	大学での学び①（教科書・ノートについて）	予習	教科書 31～74 ページを読んでおく	
				復習	授業内容の確認	
	第 7 回	内 容	大学での学び②（自分の意見の伝え方・発表について）	予習	教科書 97～114、179～192 ページを読んでおく	
				復習	授業内容の確認	
	第 8 回	内 容	大学での学び③（論文の書き方・プレゼンテーションの方法）	予習	教科書 133～178、193～206 ページを読んでおく	
				復習	授業内容の確認	
	第 9 回	内 容	レジュメ提出・発表準備	予習	レジュメの作成	
				復習	レジュメの修正	
	第 10 回	内 容	発表①	予習	発表の練習	
				復習	他の学生の発表を振り返る	
	第 11 回	内 容	発表②	予習	発表の練習	
				復習	他の学生の発表を振り返る	
	第 12 回	内 容	レクリエーション	予習	事前に伝える	
				復習	レクリエーションの内容を整理する	
	第 13 回	内 容	外部講師講演会	予習	事前に伝える	
				復習	講演内容を確認する	
	第 14 回	内 容	女性としての学び	予習	事前に伝える	
				復習	授業内容の確認	
	第 15 回	内 容	学外活動（多摩六都科学館）	予習	施設の概要を知っておく	
				復習	見学時の感想を整理する	
予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	発表については総括を行う。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（20％）、作品・発表（ ）％、実技（ ）％、授業態度（80％）					
教科書	『改増版 大学基礎講座』（藤田哲也ほか、北大路書房）					
参考文献	『書店』（著者名、出版社名）					
注意事項						

科 目 名	情報処理		単 位 数	2	実務経験	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
ナンバリングコード	EDT21101	授業形態	演習	有・無			
授 業 の 内 容	Microsoft Office に含まれる事務処理系ソフトウェア群のうち、文書作成用ソフトウェア（Word）、表計算用ソフトウェア（Excel）およびプレゼンテーション用ソフトウェア（PowerPoint）の基本的な取り扱い方を学ぶ。 授業の後半では、各ソフトウェアの同時利用などの応用課題に取り組む。						
到 達 目 標	1．幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法を習得している。 2．パソコン初心者は、「覚えるよりも慣れること」の大切さを理解している。 3．パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・②・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	ガイダンス インターネットでのメール、Windows の基礎知識、日本語の入力、ソフトウェアの起動終了、その他	予習	シラバスを読んでおく。		
				復習	パソコンの基本操作を確実に行う。		
	第 2 回	内容	Word の学習① やさしい文書の作成、その他	予習	Word の編集画面の内容を理解する。		
				復習	配布資料を用いて入力練習をする。		
	第 3 回	内容	Word の学習② 表の取り扱い、文書の修飾（フォント、下線、網かけ、レイアウト、等々）、その他	予習	表の取り扱い（Word の場合）について確認する。		
				復習	指定された課題（表付き文書）を作成する。		
	第 4 回	内容	Word の学習③ 文章の修飾（クリップアート、ワードアート、図・画像の挿入、ページ罫線）、その他	予習	文書の基本的な修飾機能について確認する。		
				復習	指定された課題（修飾付き文書）を作成する。		
	第 5 回	内容	Word の学習④ やや高度な文書加工（ページ番号、ヘッダー・フッター、段落、文字列の検索・置換）、その他	予習	文書の応用的な修飾機能について確認する。		
				復習	指定された課題（応用修飾付き文書）を作成する。		
	第 6 回	内容	Excel の学習① 基本的な表（数表）の作成、その他	予習	Excel の編集画面の内容を理解する。		
				復習	表作成を通して、Word の操作との違いを理解する。		
	第 7 回	内容	Excel の学習② 表（数表）の作成（関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、等々）、その他	予習	資料類にて示された組み込み関数を確認する。		
				復習	指定された課題（計算付き数表）を作成する。		
	第 8 回	内容	Excel の学習③ より高度なデータ処理（条件判定、セル参照、グラフ）、その他	予習	条件判定の指定方法について確認する。		
				復習	指定された課題（条件付き数表）を作成する。		
	第 9 回	内容	Excel の学習④ より高度なデータ処理（簡単なデータベース、フィルタリング）、その他	予習	入力値の並べ替え方法について確認する。		
				復習	指定された課題（入力値の抽出処理）を作成する。		
	第 10 回	内容	PowerPoint の学習① スライド作成の基本（文字入力、スライドの挿入・削除・置換）、その他	予習	PowerPoint の編集画面の内容を理解する。		
				復習	指定された課題（簡単なスライド）を作成する。		
	第 11 回	内容	PowerPoint の学習② スライド作成の応用（図表・画像の挿入、アニメーション効果）、その他	予習	スライドの応用的な修飾方法について確認する。		
				復習	指定された課題（前回の成果物の改良）を作成する。		
	第 12 回	内容	Word および Excel の応用① 長文レポート（鑑賞文など）の作成、その他	予習	Word および Excel の基本操作を再確認する。		
				復習	指定された課題（両ソフトの同時利用）を作成する。		
	第 13 回	内容	Word および Excel の応用② 各ソフトウェアの同時使用、Excel を利用した数学問題の解答、その他	予習	Word および Excel の応用操作を再確認する。		
				復習	指定された課題（数学問題の求解など）を作成する。		
	第 14 回	内容	PowerPoint の応用 Word および Excel を併用したより高度なスライドの作成、その他	予習	PowerPoint の基本操作を再確認する。		
				復習	指定された課題（授業時に指示する）を作成する。		
	第 15 回	内容	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法について、各自の見解をまとめる。	予習	これまでに配布済みの全資料類に目を通しておく。		
				復習	授業時に指定された内容のレポートを作成する。		
予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改訂増補された成果物の再提出を求める。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50％）、授業態度（50％）						
教科書	プリントを随時配布する。						
参考文献	プリントを随時配布するほか、必要に応じて随時紹介する。						
注意事項	1．パソコンの操作はピアノの演奏と同じく、触れる機会が多ければ多いほど早く上達する。パソコンに対して苦手意識をもっている人は、たとえば授業時間外にネットサーフィンを行う等して、パソコンの取り扱いに慣れ親しむようにするとよい。 2．無断欠席、無断遅刻等々、「無断～」言動は厳禁とする。						

科 目 名	英 語		単位数	2	実務経験	担当教員	すがま ゆきお 須釜 幸男
ナショナル・コード*	ENL21101		授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	子どもや家庭、保育者が暮らす社会環境を英語や英語文化の点から把握し、胎児期から学齢期の発育発達と言語（英語）習得との関係を理解する。子ども各自の心理状態や英語の習得状況を観察し、適切な英語学習法と教材、テーマを提供・援助できる力を身につけることを目的とする。						
到 達 目 標	1．旺盛な知的好奇心と高い感性の素地となる基礎学力（英語力）の重要性を理解している 2．保育者たる意志と学習意欲、社会人たるマナーや時事感覚を多文化的に身につけている 3．他者理解と自己伝達との好バランスなコミュニケーション能力向上に取り組んでいる						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（1・②・③・④・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内 容	前期ガイダンス	予 習	シラバスを事前に読んでおく		
				復 習	当科目で前期に習得すべき内容を理解する		
	第 2 回	内 容	TOEIC® Part 1 の解説・演習 ：写真描写問題	予 習	写真描写問題の概略を事前に調べておく		
				復 習	写真描写問題の傾向と解法をまとめる		
	第 3 回	内 容	TOEIC® Part 2 の解説・演習 ：応答問題	予 習	応答問題の概略を事前に調べておく		
				復 習	応答問題の傾向と解法をまとめる		
	第 4 回	内 容	TOEIC® Part 3 の解説・演習 ：会話問題	予 習	会話問題の概略を事前に調べておく		
				復 習	会話問題の傾向と解法をまとめる		
	第 5 回	内 容	TOEIC® Part 4 の解説・演習 ：説明文問題	予 習	説明文問題の概略を事前に調べておく		
				復 習	説明文問題の傾向と解法をまとめる		
	第 6 回	内 容	TOEIC® Part 5 の解説・演習 ：短文穴埋め問題	予 習	短文穴埋め問題の概略を事前に調べておく		
				復 習	短文穴埋め問題の傾向と解法をまとめる		
	第 7 回	内 容	TOEIC® Part 6 の解説・演習 ：長文穴埋め問題	予 習	長文穴埋め問題の概略を事前に調べておく		
				復 習	長文穴埋め問題の傾向と解法をまとめる		
	第 8 回	内 容	TOEIC® Part 7 の解説・演習 ：一つ・複数の文章問題	予 習	各文章問題の概略を事前に調べておく		
				復 習	各文章問題の傾向と解法をまとめる		
	第 9 回	内 容	上半期のまとめ	予 習	既習プリントを読み込み、不明点を抽出する		
				復 習	不明点を解消し、重要事項をまとめる		
	第 10 回	内 容	時事英語 ：政治分野・経済分野	予 習	政治・経済記事の特徴を事前に調査する		
				復 習	政治・経済面の見出し、略語、表記を整理する		
	第 11 回	内 容	時事英語 ：社会分野・文化分野	予 習	社会・文化記事の特徴を事前に調査する		
				復 習	社会・文化面の見出し、略語、表記を整理する		
	第 12 回	内 容	時事英語 ：芸術分野・スポーツ分野	予 習	芸術・スポーツ記事の特徴を事前に調査する		
				復 習	芸術・運動面の見出し、略語、表記を整理する		
	第 13 回	内 容	時事英語 ：エンターテインメント分野・国際分野	予 習	エンタメ・国際記事の特徴を事前に調査する		
				復 習	芸能・国際面の見出し、略語、表記を整理する		
	第 14 回	内 容	下半期のまとめ	予 習	既習プリントを読み込み、不明点を抽出する		
				復 習	不明点を解消し、重要事項をまとめる		
	第 15 回	内 容	前期授業全体のまとめ	予 習	既習項目を列挙し、得意・不得意を分析する		
				復 習	既習項目を体系化し、不得意の克服を図る		
	第 16 回	内 容	後期ガイダンス	予 習	シラバスを事前に読んでおく		
				復 習	当科目で後期に習得すべき内容を理解する		
	第 17 回	内 容	幼児向け文学に触れる ：欧州・米国	予 習	地域歴史と題材表現法の違いを事前に調べる		
				復 習	事前調査での不足点を補足する		
	第 18 回	内 容	幼児向け文学に触れる ：日本・アジア	予 習	地域歴史と題材表現法の違いを事前に調べる		
				復 習	事前調査での不足点を補足する		
	第 19 回	内 容	幼児向け映画を鑑賞する ：欧州・米国	予 習	地域性とシーンの関係性を事前に調べる		
				復 習	保育現場で活用できる演技をまとめる		
	第 20 回	内 容	幼児向け映画を鑑賞する ：日本・アジア	予 習	地域性とシーンの関係性を事前に調べる		
				復 習	保育現場で活用できる演技をまとめる		

授 業 計 画	第 21 回	内容	幼児向け音楽を鑑賞する ：欧州・米国	予習	地域歴史と歌詞曲調の関係を事前に調べる
				復習	保育現場で活用できるフレーズをまとめる
	第 22 回	内容	幼児向け音楽を鑑賞する ：日本・アジア	予習	地域歴史と歌詞曲調の関係を事前に調べる
				復習	保育現場で活用できるフレーズをまとめる
	第 23 回	内容	上半期のまとめ	予習	既習プリントを読み込み、不明点を抽出する
				復習	不明点を解消し、重要事項をまとめる
	第 24 回	内容	保育をめぐる海外事情を知る ：欧州・米国	予習	各メディアで近況動向を事前に調べておく
				復習	事前調査と授業との整合性を図り、理解する
	第 25 回	内容	保育をめぐる海外事情を知る ：日本・アジア	予習	各メディアで近況動向を事前に調べておく
				復習	事前調査と授業との整合性を図り、理解する
	第 26 回	内容	保育・子どもに用いる会話 ：喜怒哀楽の表現	予習	喜怒哀楽で学びたい表現を事前に抽出する
				復習	保育の一日の流れに即して、整理してみる
	第 27 回	内容	保育・子どもに用いる会話 ：家庭生活での表現	予習	家庭生活で学びたい表現を事前に抽出する
				復習	保育の一日の流れに即して、整理してみる
	第 28 回	内容	保育・子どもに用いる会話 ：集団生活での表現	予習	集団生活で学びたい表現を事前に抽出する
				復習	保育の一日の流れに即して、整理してみる
	第 29 回	内容	下半期のまとめ	予習	既習プリントを読み込み、不明点を抽出する
				復習	不明点を解消し、重要事項をまとめる
	第 30 回	内容	後期授業全体のまとめ	予習	既習項目を列挙し、得意・不得意を分析する
				復習	既習項目を体系化し、不得意の克服を図る
予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	作成・提出したレポート・課題にコメントや添削を実施する。 また、語彙力や基礎文法等の重要項目、講義テーマの探求・意見形成の向上・確認をその都度、実施する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（50%）、授業態度（50%）（注）単元の終了ごとに小テストを実施する。				
教科書	「なし」 毎回、プリント（A4サイズ）を配布しますので、収納用クリアフォルダ（A4サイズ）を1枚ご用意ください。例年、他科目と混入して紛失・汚損する学生が出ます。再配布は行ないませんので、「英語」授業専用のクリアフォルダを必ず用意すること。				
参考文献	毎回配布するプリントで随時、紹介します。				
注意事項	「英語とコンピュータのスキルがあれば食いつばぐれない」という台詞が少し前に盛んに交わされました。グローバル化時代に突入し、それはより切実に、私達に迫っています。今後は一先ず、英語の「得意・不得意」や「好き・嫌い」は脇に置き、この授業を通じて、皆さんが英語というものに関わり、自分なりに親しみながら、英語の4技能（読書聞話）のイロハを体得していきましょう。				

科 目 名	心理学入門		単位数	2	実務経験	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文	
ナソバ・リンク・コート*	EDP21101		授業形態	講義	有・無			
授 業 の 内 容	心理学は人の心という誰にとっても身近なものを扱う学問であるが、領域は多岐に渡り、様々な分野の「～心理学」がある。本講義では、心理学における主要な考え方を紹介するとともに、学生が授業の中で、心理学的な体験をしてもらう。							
到 達 目 標	1. 心理学という学問領域を理解している。 2. 心理学の諸領域を知っている。 3. 心理学の代表的な理論を学んでいる。 4. 自身の体験と心理学の理論を関連付けられる。							
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科 ①・② 3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）							
授 業 計 画	第 1 回	内 容	心理学とは	予習	シラバスを読んでおく。			
				復習	授業内容の確認。			
	第 2 回	内 容	心理学の歴史	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	授業内容の確認。			
	第 3 回	内 容	認知と心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 4 回	内 容	行動と心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 5 回	内 容	発達と心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 6 回	内 容	知能と心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 7 回	内 容	性格と心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 8 回	内 容	心理テストと心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 9 回	内 容	精神医学と心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 10 回	内 容	悩みと心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 11 回	内 容	対人援助と心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 12 回	内 容	その他の心理学	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 13 回	内 容	心理学と研究	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 14 回	内 容	心理学と実験	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	第 15 回	内 容	心理学と生活	予習	教科書を読んでおく。			
				復習	自分の生活に当てはめて考える。			
	予習に要する学習時間：概ね 1 5 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 3 0 分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	テストの結果について知らせる。						
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（90%）、レポート・課題（ %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度（10%）						
教科書	『新体系 看護学全書 基礎分野 心理学』（田中一彦、長田久雄、メヂカルフレンド社）							
参考文献								
注意事項	私語を慎むこと。							

科 目 名	マンガ・イラスト表現		単位数	2	実務経験	担当 教員	いいだ こういちろう 飯田 耕一郎	
ナンバリングコード	ARL21101		授業形態	演習	有・無			
授業の内容	マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、デッサン、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になります。 イラストもまた物語性を理解することによって創作の幅が広がるものと考えて大きな区別はありません。							
到達目標	1. 人物の顔と表情が描き分けられるようになり、いろんなキャラを描くことができる。 2. 人物の全身は難しいですが、チビキャラで構造を理解し描くことができる。 3. 人物に合わせて背景も描けるためのパースの基礎を理解できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7） 地域保育学科（1・②・③・4・5） 文化表現学科（1・2・3・4）							
授 業 計 画	第1回	内容	【○と□を描こう】 円と四角を描けることが基本の基本。			予習	均等な線を引けるように描く	
						復習	○と□を描く	
	第2回	内容	【いろんな表情を描こう】 表情が変化するパターンを学ぶ。			予習	大きさを変えて○を描く	
						復習	自分でパターンをつくってみる	
	第3回	内容	【喜怒哀楽の表情を描こう】 感情表現を理解する。			予習	顔の感情変化を考えてみる	
						復習	パターンの数を増やしてみる	
	第4回	内容	【二頭身キャラを描こう】 シンプルなキャラを描く。			予習	同じ大きさの○をふたつ描く	
						復習	体型の変化を考えて描く	
	第5回	内容	【二頭身キャラのアクション】 キャラに動きをつける。			予習	ふたつの○を重ねて描く	
						復習	動きのパターンを考えて描く	
	第6回	内容	【三頭身キャラを描こう】 キャラを描く。			予習	同じ大きさの○を三つ描く	
						復習	体型の変化を考えて描く	
	第7回	内容	【三頭身キャラのアクション】 キャラに動きをつける。			予習	三つの○を重ねて描く	
						復習	動きのパターンを考えて描く	
	第8回	内容	【一点透視図法を学ぼう】 パースを理解する。			予習	定規で直線を均等に引く	
						復習	箱を並べて描いてみる	
	第9回	内容	【一点透視図法を学ぼう】 家を描いてみる。			予習	一点パースの写真に線を引き手みる	
						復習	家のパターンを変えて描いてみる	
	第10回	内容	【一点透視図法を学ぼう】線路を描いてみる。カーブをかけてみる。			予習	一点パースの写真に消失点を探す	
						復習	並んだ電柱を描いてみる	
	第11回	内容	【二点透視図法を学ぼう】 箱を描いてみる。			予習	二つの箱を左右に分けて描いてみる	
						復習	形の違う箱を並べて描いてみる	
	第12回	内容	【二点透視図法を学ぼう】 ビルを描いてみる。			予習	二点パースの写真に線を引いてみる	
						復習	ビルに窓を足してみる	
	第13回	内容	【二点透視図法を学ぼう】 いろんな角度のBOXを描いてみる。			予習	空き箱を描いてみる	
						復習	アイレベルを変えて箱を描いてみる	
	第14回	内容	【自分の部屋を描いてみよう】 部屋と人物を描く。			予習	自分の部屋の見取り図を描いてみる	
					復習	描いた部屋に小物を描いてみる		
第15回	内容	【色を塗ってみよう】 塗り絵でカラー表現を学ぶ。			予習	色鉛筆を使っておく		
					復習	色鉛筆でグラデーションを表現する		
予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題作品にたいしてのアドバイスによる修正点、上達ポイントを指摘することでより向上を目指します。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）							
教科書	なし							
参考文献	なし							
注意事項								

科 目 名	日 本 語 表 現		単 位 数	2	実務経験	担当教員	あさぎ なおみ 浅木 尚実
ナソバ・リンク・コート*	EDU21102		授業形態	講義	有・無		
授 業 の 内 容	文章作成の基本、美しい日本語、読みやすい文章とは何かを学ぶ。また、日本語の基礎を身につけ、常識としての日本語表現を習得する。人前で発表することで、わかりやすい説明の仕方を身につけると同時に、読書する喜びを味わう。						
到 達 目 標	1. 社会生活に必要な漢字、熟語等の語彙を取得している。 2. わかりやすく読みやすい文章の基本を学び、文章表現技術を習得している。 3. 人前で発表できる。 4. 日常的に読書をする習慣を身につけている。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・②・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内 容	オリエンテーション	予習	シラバスを読んでおく。		
				復習	自分の読書暦を振り返る。		
	第 2 回	内 容	名文を読む	予習	自分の好きな文学を準備する。		
				復習	文学の朗読の練習をする。		
	第 3 回	内 容	詩を鑑賞する	予習	自分の好きな詩集を準備する。		
				復習	詩の朗読の練習をする。		
	第 4 回	内 容	保育士に必要な日本語トレーニング① ことわざ、四字熟語を学ぶ。	予習	ことわざ、四字熟語について調べる。		
				復習	ことわざ、四字熟語を覚える。		
	第 5 回	内 容	保育士に必要な日本語トレーニング② 正しい表記の仕方 間違えやすい熟語・漢字を学ぶ。	予習	間違えやすい表記、熟語、漢字について調べる。		
				復習	正しい表記、熟語、漢字の書き方を覚える。		
	第 6 回	内 容	保育士に必要な日本語トレーニング③ 敬語の基本を学ぶ。	予習	敬語について調べる。		
				復習	正しい敬語の使い方を覚える。		
	第 7 回	内 容	保育士に必要な日本語トレーニング④ 敬語を使う。	予習	正しい敬語を使えるようにする。		
				復習	日常的に敬語を使う。		
	第 8 回	内 容	保育士に必要な日本語トレーニング⑤ 文章トレーニング	予習	日常生活で気付いたことをメモする。		
				復習	エッセイにまとめる。		
	第 9 回	内 容	保育士に必要な日本語トレーニング⑥ 自由文を書く。	予習	興味のあるテーマを探す。		
				復習	自由文にまとめる。		
	第 10 回	内 容	保育士に必要な日本語トレーニング⑦ テーマに沿って書く。	予習	保育に関するテーマの資料を準備する。		
				復習	レポートにまとめる。		
	第 11 回	内 容	保育士に必要な日本語トレーニング⑧ 手紙、はがきを書く。	予習	手紙、はがきの書き方を調べる。		
				復習	手紙、はがきを書く。		
	第 12 回	内 容	発表の仕方を学ぶ。	予習	発表の仕方を調べる。		
				復習	発表の仕方をまとめる。		
	第 13 回	内 容	発表① 発表し、その後の振り返りをする。	予習	発表の準備をする。		
				復習	発表全般の振り返りをする。		
	第 14 回	内 容	発表② 発表し、振り返りをする。	予習	発表の準備をする。		
				復習	発表全般の振り返りをする。		
	第 15 回	内 容	発表③ 発表し、振り返りをする。	予習	発表の準備をする。		
				復習	発表全般の振り返りをする。		
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業内にて小テストを行い、要点を解説する。次回の内容と予習すべき事項を示す。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（30%）、レポート・課題（40%）、作品・発表（20%）、実技（ %）、授業態度（10%）						
教科書	『保育者になるための国語表現』（田上貞一郎、萌文書林）						
参考文献	その都度紹介する。						
注意事項	授業を通して、日本語に対する意識を高め、美しい日本を身に付けるよう努力してほしい。						

科 目 名	生 命 と 科 学		単 位 数	2	実務経験	担当教員	きたのまさる 北野 大
ナンバリングコード	LIH21101		授業形態	講義	有・無		
授 業 の 内 容	1）現在の我が国の大気汚染や水質汚濁、廃棄物などのいわゆる公害問題及び地球温暖化、オゾン層破壊、森林破壊、砂漠化などの地球規模の環境問題の現状、原因及び対策について学ぶ。 2）地球温暖化に関連して我が国のエネルギー問題についても学ぶ。 3）食の安全について農薬や食品添加物について学ぶ、 4）地球にやさしい社会とするための新しい価値観及びライフスタイルの在り方について学ぶ。 授業は基本的に双方向で行い、教科書に書いていないことや、なぜという観点から質問を行い、ただ単に知識を習得するばかりでなく、考える力を養うことを目標とする。						
到 達 目 標	1. 現在のわが国の環境問題の現状について理解している。 2. 地球規模の環境問題について理解している。 3. 食の安全に関し、農薬や食品添加物の役割を理解している。 4. 上記の理解に基づき、日常生活の中で環境に配慮した生活を送ることができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・2・③・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション パート1 「地球と人間」 地球の誕生と生命の誕生 人口増加の現状	予習	教科書の目次に目を通しておき、どのようなことを学ぶのか、あらかじめ理解しておくこと。		
				復習	教科書のパート1についてよく読みなおし、疑問点などのメモに回答を加えること。		
	第 2 回	内容	パート2 「地球温暖化」 地球温暖化問題 フロンによるオゾン層の破壊	予習	教科書のパート2についてよく事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。		
				復習	教科書のパート2についてよく読みなおし、疑問点などのメモに対し、回答を加えること。		
	第 3 回	内容	パート3 「原子力発電」 我が国の電源構成 原子力発電のプラスとマイナス面 放射性廃棄物問題	予習	教科書のパート3について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。		
				復習	教科書のパート3についてよく読みなおし、疑問点などのメモに回答を加えること。		
	第 4 回	内容	パート4 「大気汚染」 大気汚染の現状 PM2.5およびオキシダントの現状 酸性雨 自動車の排ガス対策	予習	教科書のパート4について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。		
				復習	教科書のパート4についてよく読みなおし、疑問点などのメモに、回答を加えること。		
	第 5 回	内容	パート5 「水質汚濁」 水の汚れの数値化 川の汚れと生き物 排水処理の方法 トリハロメタンとは	予習	教科書のパート5について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。		
				復習	教科書のパート5についてよく読みなおし、疑問点などのメモに回答を加えること。		
	第 6 回	内容	パート6 「地下水汚染」 地下水の利用 地下水汚染の原因 土壌の役割	予習	教科書のパート6について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。		
				復習	教科書のパート6についてよく読みなおし、疑問点などのメモに回答を加えること。		
	第 7 回	内容	パート7 「森林破戒」 森の役割 森林破壊の現状 絶滅危惧動物 生物多様性	予習	教科書のパート7について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。		
				復習	教科書のパート7についてよく読みなおし、疑問点などのメモに、回答を加えること。		
	第 8 回	内容	「中間復習1」 質疑応答形式で行う。	予習	教科書のパート1から7について読みなおし、理解しづらかった点、不明な点などを改めてメモに残しておき、質問事項としてまとめておくこと。		
				復習	これまで学んだことがきちんと理解できているか、友人に説明することで自らの理解の程度を把握すること。		
	第 9 回	内容	パート8 「資源循環」 資源の枯渇性 廃棄物の種類 ダイオキシン対策	予習	教科書のパート8について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。		
				復習	教科書のパート8についてよく読みなおし、疑問点などのメモに回答を加えること。		
	第 10 回	内容	パート9 「食の安全性」 食料自給率 食品添加物 残留農薬	予習	教科書のパート9について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。		
				復習	教科書のパート9についてよく読みなおし、疑問点などをメモに回答を加えること。		
	第 11 回	内容	パート10 「食とアレルギー」 アレルギーとは シックスクール	予習	教科書のパート10について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。		
				復習	教科書のパート10についてよく読みなおし、疑問点などのメモに回答を加えること。		

	第 12 回	内容	パート 1 1 「戦争と環境問題」	予習	教科書のパート 1 1 について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。
				復習	教科書のパート 1 1 についてよく読みなおし、疑問点などのメモに回答を加えること。
	第 13 回	内容	パート 1 2 「環境基本法」	予習	教科書のパート 1 2 について事前によく読み、理解しづらい点、不明な点などをメモに残しておくこと。
				復習	教科書のパート 1 2 についてよく読みなおし、疑問点などのメモに回答を加えること。
	第 14 回	内容	「中間復習 2」 質疑応答形式で行う。	予習	教科書のパート 8 から 1 2 について読みなおし、理解しづらかった点、不明な点などを改めてメモに残しておき、授業の中で質問するようにすること。
				復習	これまで学んだことがきちんと理解できているか、友人に説明することで自らの理解の程度を把握すること。
	第 15 回	内容	「総復習」	予習	教科書の演習問題についてあらかじめ調べ始める。
				復習	教科書全体を振り返り、期末試験に備える。
予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	授業中に行う質問についてはその都度、正解を学生に与え、正解ごとに期末試験の点数に 1 点加点する。 期末試験については正解を掲示し、あわせてその解説も掲示する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ○ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 9 0 % ）、レポート・課題（ % ）、作品・発表（ % ）、実技（ % ）、授業態度（ 1 0 % ）				
教科書	「地球環境問題がよくわかる本」 浦野紘平、浦野真弥 オーム社（ 2 0 1 7 ）				
参考文献	必要に応じその都度プリントを配布し、教科書の記述内容の補完をする。				
注意事項	授業で学んだことをぜひ実生活で実践していただきたい。				

科 目 名	保育原理Ⅰ		単 位 数	2	実務経験	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナソバ・リンク・コート	EDU22101		授業形態	講義	有・無		
授 業 の 内 容	本講義では、主に次のような内容を学ぶ。 １． 保育の制度や現状、保育の思想や歴史について学び、保育の意義を学ぶ。 ２． 『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を踏まえて、生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や保育の計画といった保育の基本的な考え方を学ぶ。 ３． 保育・子育てに関する現状や課題を理解し、今日的な課題について考える。						
到 達 目 標	１． 保育の制度や現状、保育の思想や歴史について学び、保育の意義を理解している。 ２． 生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や環境構成といった保育の基本的な考え方を理解している。 ３． 子どもの育ちにかかわる保護者・保育者にとっての保育の意義を理解している。 ４． 保育・子育てに関する現状や課題を理解し、今日的な課題について考えることができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４・５・６・７） 地域保育学科（①・②・３・④・５） 文化表現学科（１・２・３・４）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション	予習	教科書の全体に目を通す		
				復習	幼稚園教育要領や保育所保育指針に目を通す		
	第 2 回	内容	保育の意義（子ども・保護者・保育者、それぞれが育つ場所）	予習	保育の意義について、プリントの穴埋めをする		
				復習	保育の意義をノートに整理する		
	第 3 回	内容	保育の制度と現状	予習	保育の制度と現状について、プリントの穴埋め		
				復習	保育の制度と現状をノートに整理する		
	第 4 回	内容	保育の思想と歴史（西洋を中心とした諸外国の保育の歴史）	予習	保育の思想と歴史（西洋）のプリント穴埋め		
				復習	保育の思想と歴史（西洋）をノートに整理する		
	第 5 回	内容	保育の思想と歴史（日本における保育の歴史）	予習	保育の思想と歴史（日本）のプリント穴埋め		
				復習	保育の思想と歴史（日本）をノートに整理する		
	第 6 回	内容	保育の基本的な考え方①子どもの主体性を尊重する	予習	子どもの主体性の尊重、プリントの穴埋め		
				復習	子どもの主体性の尊重をノートに整理する		
	第 7 回	内容	保育の基本的な考え方②遊びを中心とする保育	予習	遊びを中心とする保育、プリントの穴埋め		
				復習	遊びを中心とする保育をノートに整理する		
	第 8 回	内容	保育の基本的な考え方③環境を通しての育ち	予習	環境を通しての育ち、プリントの穴埋めをする		
				復習	環境を通しての育ちをノートに整理する		
	第 9 回	内容	保育の基本的な考え方④子ども一人ひとりの発達過程を捉える	予習	子どもの発達過程、プリントの穴埋めをする		
				復習	子どもの発達過程をノートに整理する		
	第 10 回	内容	保育の基本的な考え方⑤個と集団	予習	個と集団についてプリントの穴埋めをする		
				復習	個と集団をノートに整理する		
	第 11 回	内容	保育の基本的な考え方⑥全体的な計画・教育課程と指導計画	予習	保育の計画についてプリントの穴埋めをする		
				復習	保育の計画をノートに整理する		
	第 12 回	内容	子どもと自然	予習	子どもと自然、プリントの穴埋めをする		
				復習	子どもと自然をノートに整理する		
	第 13 回	内容	子どもと文化	予習	子どもと文化、プリントの穴埋めをする		
				復習	子どもと文化をノートに整理する		
	第 14 回	内容	保育における子ども理解	予習	子ども理解、プリントの穴埋めをする		
				復習	子ども理解をノートに整理する		
	第 15 回	内容	保育者に求められるもの、まとめ	予習	これまでの内容を整理する		
				復習	学んだ内容を整理する		
予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	定期試験の内容について、解説を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（70％）、レポート・課題（20％）、授業態度（10％）						
教科書	『よくわかる保育原理』 森上史朗・大豆生田啓友、ミネルヴァ書房						
参考文献	『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）						
注意事項							

科 目 名	教 育 原 理		単 位 数	2	実務経験	担当教員	とねがわ あきひろ 利根川 彰博
ナンバリングコード	EDU22103		授業形態	講義	有・無		
授 業 の 内 容	この授業では、他者との出会いの中に「教育」の根源的な性質が存在することを理解することから始める。そのうえで、子どもに対する考え方が歴史的にどのように変化し、学校教育へと制度化していったかを学んでいく。授業の後半では、今日的な教育課題へと視野を広げ、子どもをとりまく現状について理解を深めていく。						
到 達 目 標	1. 人間の教育を成り立たせている諸要素を理解している。 2. 子どもの教育の歴史的・制度的な変遷を理解している。 3. 現代の日本社会の教育問題について意識を向ける。 4. これまで受けてきた教育経験を教育学の基礎的な諸概念を用いて説明することができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・②・3・④・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション：教育学とは何か	予習	シラバスを読み、授業計画を把握する。		
				復習	授業の評価方法や注意事項を確認する。		
	第2回	内容	教育の概念①：人間の発達と赤ちゃんの特徴	予習	人間の赤ちゃんの特徴を調べる。		
				復習	哺乳類動物と人間の赤ちゃんを比較し、その特徴を整理する。		
	第3回	内容	教育の概念②：人間の発達過程と他者との関わり	予習	乳幼児と大人の会話場面を観察する。		
				復習	乳幼児と大人の相互行為の特徴を整理する。		
	第4回	内容	教育と社会①：教育における家庭と社会の役割	予習	「しつけ」の言葉の意味を調べる。		
				復習	教育の社会的機能についてまとめる。		
	第5回	内容	教育と社会②：分業化社会と教育	予習	課題文を読み、要点をまとめる。		
				復習	社会形態の変遷と教育の関係を整理する。		
	第6回	内容	教育の思想①：西洋近代の教育思想と近代的な子ども観	予習	今日的な子どものイメージを調べる。		
				復習	子ども観の変遷をまとめる。		
	第7回	内容	教育の思想②：日本社会における子ども観の変化と子どもの生活	予習	資料から読み取った内容をまとめる。		
				復習	日本社会の子ども観の変遷を整理する。		
	第8回	内容	中間のまとめと補論：子ども・家庭・社会の歴史的展開と相互の関連性	予習	これまでの授業の質問事項をまとめる。		
				復習	子ども・家庭・社会の関係を整理する。		
	第9回	内容	教育の歴史①：西洋の近代学校教育制度の成立と展開	予習	資料から読み取った内容をまとめる。		
				復習	西洋の近代学校教育制度の変遷を整理する。		
	第10回	内容	教育の歴史②：日本の近代学校教育制度の成立と展開	予習	資料から読み取った内容をまとめる。		
				復習	日本の近代学校教育制度の変遷を整理する。		
	第11回	内容	教育の概念③：教育と社会化	予習	「社会化」という言葉の意味を調べる。		
				復習	「社会化」の具体的事例をまとめる。		
	第12回	内容	教育の概念④：就学前教育から小学校への移行期と子どもの社会化	予習	課題文を読み、要点をまとめる。		
				復習	就学前教育と小学校の教育の特徴を整理する。		
	第13回	内容	今日の教育の課題①：社会的マイノリティと教育	予習	課題文を読み、要点をまとめる。		
				復習	社会的マイノリティへの対応を整理する。		
	第14回	内容	今日の教育の課題②：教育における排除と包摂	予習	課題文を読み、要点をまとめる。		
				復習	教育における排除の構造を整理する。		
	第15回	内容	全体のまとめと補論：教育とは何か	予習	これまでの授業の質問事項をまとめる。		
				復習	教育とは何かについて意見をまとめる。		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	授業内課題はコメントをつけて返却する。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（80％）、授業態度（20％）						
教科書	なし						
参考文献	『はじめての子ども教育原理』（福本真由美編，有斐閣ストゥディア）						
注意事項	・授業毎にプリントを配布する。配布プリントはファイルにまとめて保管しておくこと。						

科 目 名	社 会 福 祉		単 位 数	2	実務経験	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子	
ナソバ・リンク・コート*	SWS22101		授業形態	講義	有・無			
授 業 の 内 容	福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の構成要素やその課題などについて学ぶことを目的としている。さらに、社会福祉における子ども家庭支援の視点についても理解する。							
到 達 目 標	１．福祉政策を理解している。 ２．現代における福祉課題を理解している。 ３．社会の変化について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４・５・６・７） 地域保育学科 ①・２・３・④・５） 文化表現学科（１・２・３・４）							
授 業 計 画	第 1 回	内 容	社会福祉の新たな展開	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第 2 回	内 容	福祉政策理解の枠組み	予習	自身の生活と福祉のつながりを考えてくる			
				復習	現代生活と福祉の関係を理解する			
	第 3 回	内 容	社会の変化と福祉	予習	教科書「生活と社会福祉」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 4 回	内 容	福祉と福祉政策	予習	教科書「生活保護」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 5 回	内 容	福祉の思想と哲学	予習	教科書「社会福祉の歴史」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 6 回	内 容	社会政策と福祉政策	予習	教科書「社会福祉の法律」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 7 回	内 容	福祉政策の民間活動	予習	教科書「民間活動」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 8 回	内 容	保育と社会福祉	予習	教科書「保育と社会福祉」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 9 回	内 容	福祉政策における必要と資源	予習	教科書「利用者保護」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 10 回	内 容	障がい者福祉	予習	教科書「障がい者福祉」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 11 回	内 容	福祉政策の関連領域	予習	教科書「社会福祉従事者」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 12 回	内 容	社会福祉制度の体系	予習	教科書「行政組織」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 13 回	内 容	児童家庭福祉	予習	教科書「児童家庭福祉」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 14 回	内 容	福祉教育	予習	教科書「福祉教育」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 15 回	内 容	これまでのまとめ	予習	教科書・プリントの内容を整理する			
				復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る			
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。						
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（20%）、授業態度（30%）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。						
教科書	『社会福祉の基本体系 第 5 版』（井村圭壯編著、勁草書房）							
参考文献	なし							
注意事項								

科 目 名	保 育 の 心 理 学		単 位 数	1	実務経験	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
ナンバリングコード	EDP22101		授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	本講義では、発達心理学と教育心理学等の基礎的知識の獲得と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。						
到 達 目 標	1. 発達心理学、教育心理学等の基本的および発展的知識を正確に習得している。 2. 学んだ知識を活用して、実際の保育現場の子どもの心の発達等について考えられる力を身につけている。 3. 学んだ知識を子育て支援に活かすことができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４・５・６・７） 地域保育学科（①・②・３・④・５） 文化表現学科（１・２・３・４）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	イントロダクション	予習	シラバスを読み、授業計画を把握する。		
				復習	授業内容と評価方法について理解する。		
	第 2 回	内容	保育の心理学の基礎①〔発達理論〕	予習	発達理論について調べる。		
				復習	発達理論について理解し整理する。		
	第 3 回	内容	保育の心理学の基礎②〔発達理論〕	予習	その他の発達理論について調べる。		
				復習	発達理論について理解し整理する。		
	第 4 回	内容	保育の心理学の基礎③〔教育心理学の理論等〕	予習	教育心理学の理論等について調べる。		
				復習	教育心理学の理論等について理解し整理する。		
	第 5 回	内容	保育の心理学の基礎④〔教育心理学の理論等〕	予習	その他の教育心理学の理論等について調べる。		
				復習	教育心理学の理論等について理解し整理する。		
	第 6 回	内容	知的機能	予習	知的機能について調べる。		
				復習	知的機能について理解し整理する。		
	第 7 回	内容	情緒	予習	情緒について調べる。		
				復習	情緒について理解し整理する。		
	第 8 回	内容	社会性	予習	社会性について調べる。		
				復習	社会性について理解し整理する。		
	第 9 回	内容	発達障害〔発達障害とは何か〕①	予習	発達障害について調べる。		
				復習	発達障害について理解し整理する。		
	第 10 回	内容	発達障害〔発達障害の種類〕②	予習	発達障害の種類について調べる。		
				復習	発達障害の種類について理解し整理する。		
	第 11 回	内容	発達障害〔発達障害への対応〕③	予習	発達障害への対応について調べる。		
				復習	発達障害への対応について理解し整理する。		
	第 12 回	内容	子どもの発達への関わりと保育方法の工夫	予習	子どもの発達について調べる。		
				復習	発達への関わりと工夫について理解し整理する。		
	第 13 回	内容	家庭、保護者、他機関等との連携	予習	連携について調べる。		
				復習	他者・他機関との連携について理解し整理する。		
	第 14 回	内容	保育者自身の心の健康	予習	心の健康について調べる。		
				復習	保育者の心の健康について理解し整理する。		
	第 15 回	内容	まとめと今後へのアドバイス	予習	本講義全体の学びと疑問点を整理する。		
				復習	学んだ知見の活用について考察をする。		
予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	受講学生に対して、主に個別に試験やレポートの成績のフィードバックをおこなう。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（6 0％）、レポート・課題（2 0％）、授業態度（1 0％）						
教科書	特に指定しない。						
参考文献	講義の際に随時紹介する。						
注意事項	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例やビデオ視聴等で理解を深め、さまざまな知見等を保育の実践に活かすことを考える。受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。						

科 目 名	子ども家庭支援の心理学		単 位 数	2	実務経験	担当教員	こみなと まい 小湊 真衣
ナンバリングコード	EDP22102		授業形態	講義	有・無		
授 業 の 内 容	①生涯発達に関する心理学の基本的知識を身につけ、各発達段階の発達課題について理解すること、②現代社会における家族・家庭のあり方や多様な家庭について理解すること、③子どもの心の健康に関する課題について理解すること。これら3つの視点から子ども家庭支援について包括的に理解することを本講義の目的とする。						
到 達 目 標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解している 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係などについて発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科 ①・②・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション、乳児期の発達	予習	シラバスを読んでおく		
				復習	初期経験の重要性についてまとめる		
	第2回	内容	幼児期の発達	予習	幼児期の子どもの特徴について調べる		
				復習	幼児期の発達課題についてまとめる		
	第3回	内容	学童期の発達	予習	学童期の子どもの特徴について調べる		
				復習	学童期の発達課題についてまとめる		
	第4回	内容	青年期から成人期の発達	予習	青年期のライフイベントについて調べる		
				復習	青年期の発達課題についてまとめる		
	第5回	内容	老年期の発達	予習	老年期のライフイベントについて調べる		
				復習	老年期の発達課題についてまとめる		
	第6回	内容	家族・家庭の意義と機能	予習	家族・家庭の機能について調べる		
				復習	家族・家庭の意義と機能についてまとめる		
	第7回	内容	親子関係・家族関係の理解	予習	親子関係の機能について調べる		
				復習	親子関係・家族関係について発達の視点からまとめる		
	第8回	内容	子育ての経験と親としての育ち	予習	子育てと親の育ちについて調べる		
				復習	子育て経験と親の育ちについてまとめる		
	第9回	内容	子育て家庭に関する現状と課題	予習	子育て家庭の現状と課題について調べる		
				復習	子育て家族の現状と課題についてまとめる		
	第10回	内容	ライフコースと仕事・子育て	予習	仕事と子育ての関係について調べる		
				復習	ライフコースと仕事・子育てについてまとめる		
	第11回	内容	多様な家庭の理解と支援	予習	多様な家庭の現状と課題について調べる		
				復習	多様な毛亭の現状と課題についてまとめる		
	第12回	内容	特別な配慮を要する家庭の理解と支援	予習	特別な配慮を要する家庭の現状と課題について調べる		
				復習	特別な配慮を要する家庭の現状と課題についてまとめる		
	第13回	内容	子どもの心の健康に関わる問題	予習	子どもの心の健康に関する現状と課題について調べる		
				復習	子どもの心の健康についてまとめる		
	第14回	内容	子どもの精神保健とその課題	予習	子どもの精神保健の現状と課題について調べる		
				復習	子どもの精神保健の現状と課題についてまとめる		
	第15回	内容	子ども家庭支援の心理学	予習	これまでの学習内容について総復習する		
				復習	子ども家庭支援のあり方についてまとめる		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
	課題へのフィードバック	提出された予習課題および復習課題にコメントを行う					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 予習課題（50％）、復習課題（50％）、授業態度（参考）						
教科書	なし						
参考文献	『アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育』（尾野明美・小湊真衣、萌文書林）						
注意事項	毎時間ごとの予習と復習が必須です。問題意識を持って主体的に学ぶ姿勢を身につけてください。						

科 目 名	子どもの食と栄養		単 位 数	2	実務経験	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
ナソパ®リンク®コート®	EAH22101		授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	乳・幼児期の食生活は心身の発育・発達に大きく影響し、幼児期に身についた食生活はその子どもの一生の食習慣を左右する。食事は単に栄養素を摂取するだけではなく、心身の順調な発育、発達を促し健康な生活を営むための基礎となることを理解し、保育者として必要な食・栄養の知識を身につける。子どもを取り巻く食環境や課題を把握し、この授業を通して自身の適切な食生活も考えて欲しい。						
到 達 目 標	1. 健康な生活を営むために必要な栄養の知識と体の仕組みを理解し、適切な食生活をおくことができる。 2. 子どもの心身の発達段階にふさわしい栄養と食生活を理解し、子どもがよく噛んで美味しく味わうための環境づくりに取り組むことができる。 3. 子どもを取り巻く食の様々な問題点から食教育の重要性を理解し実践力を身につけている。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・②・3・④・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション 健康・栄養とは 栄養クイズ		予習	シラバスを読んでおく	
					復習	栄養の基礎知識を確認しておく	
	第 2 回	内容	子どもを取り巻く食環境 心身の健康と食生活		予習	自分自身の食生活を振り返る	
					復習	栄養素の名称と働きについて調べる	
	第 3 回	内容	からだと栄養① 栄養・健康に関する基礎知識		予習	健康について考える	
					復習	栄養素の役割と食品をまとめる	
	第 4 回	内容	からだと栄養② 栄養の概念と栄養素の役割		予習	栄養と栄養素の違いを理解する	
					復習	栄養の重要性を理解する	
	第 5 回	内容	からだと栄養さん 食べ物のゆくえ ～消化・吸収のいとなみ～（ビデオ）		予習	からだに必要な栄養を考える	
					復習	栄養素の体内での営みと役割を理解する	
	第 6 回	内容	からだと栄養④ 発育・発達と栄養 まとめ・小テスト		予習	発育・発達の意味を調べる	
					復習	発育・発達に必要な栄養を理解する	
	第 7 回	内容	からだと栄養⑤ 食事摂取基準と献立作成・調理の基本		予習	食事摂取基準について調べる	
					復習	食事摂取基準とその利用を理解する	
	第 8 回	内容	妊娠期・授乳期の食生活		予習	妊娠期・授乳期の栄養について考える	
					復習	妊娠期・授乳期に必要な栄養をまとめる	
	第 9 回	内容	子どもの発育・発達と食生活② 乳汁栄養（母乳、人工栄養）		予習	乳汁栄養について調べる	
					復習	母乳の利点、人工栄養についてまとめる	
	第 10 回	内容	子どもの発育・発達と食生活③ 哺乳動作の発達（ビデオ）		予習	哺乳、原始反射について調べる	
					復習	ビデオから学んだ原始反射についてまとめる	
	第 11 回	内容	子どもの発育・発達と食生活④ 排泄		予習	排泄の重要性を考える	
					復習	食事と排泄についてまとめる	
	第 12 回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑤ 摂食機能の発達（ビデオ）		予習	哺乳から摂食へ移行する意味を考える	
					復習	ビデオから学んだ摂食機能をまとめる	
	第 13 回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑥ 離乳の意義と進め方		予習	離乳の必要性を考える	
					復習	離乳を進めるためのポイントをまとめる	
	第 14 回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑥ 離乳期の食生活・離乳食（ビデオ）		予習	離乳の進め方を理解しておく	
					復習	ビデオから学んだ離乳食の形態と調理方法をまとめる	
	第 15 回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑦ 園での食事（ビデオ）・まとめ・テスト		予習	市販のベビーフードについて調べる	
					復習	保育所等での食事の様子を理解する	
	第 16 回	内容	幼児期の発育・発達と栄養		予習	幼児期の食生活の問題点について調べる	

				復習	幼児期に必要な栄養をまとめる
	第 17 回	内容	学童期の栄養	予習	学童期の食生活、問題点について調べる
				復習	必要な栄養と学童への食教育についてまとめる
	第 18 回	内容	給食 児童福祉施設の食事、学校給食	予習	給食の意義を調べる
				復習	給食の目的、種類、利点を理解する
	第 19 回	内容	アレルギー 食物アレルギーと子どもへの対応 エピペンの使用方法	予習	アレルギーについて調べる
				復習	アレルギーを持つ子どもへの対応法をまとめる
	第 20 回	内容	特別な配慮が必要なこどもの食と栄養① 障がいのある子どもへの対応	予習	食べる機能の障がいを考える
				復習	障がいをもつ子どもへの食支援をまとめる
	授 業 計 画	第 21 回	内容	特別な配慮が必要なこどもの食と栄養② 疾病、体調不良の子どもへの対応	予習
復習					子どもの体調に合わせた食事と対応方法をまとめる
第 22 回		内容	食教育① 日本の栄養教育の歴史 食育基本法の目的と概要	予習	食育の意味を考える
				復習	保育者に必要な食育基本法の内容をまとめる
第 23 回		内容	食教育② 食育のための環境、小テスト	予習	乳幼児への食教育の意義を考える
				復習	食教育のための環境と必要性をまとめる
第 24 回		内容	食教育③ 食育計画の立案 まとめ	予習	子どもの年齢に応じた食の特徴と問題点をまとめる。
				復習	保育者に求められている食教育を理解する
第 25 回		内容	食教育演習① 食育計画と媒体、資料収集	予習	対象年齢の子どもに必要な食教育を考える
				復習	食育計画のねらいに合わせた媒体を立案する
第 26 回		内容	食教育演習② 対象年齢に合わせた食育媒体制作	予習	媒体制作に必要な資料、材料を準備する
				復習	媒体制作をすすめる
第 27 回		内容	食教育演習③ 食教育媒体制作・発表準備	予習	媒体制作をすすめる
				復習	媒体を用いた保育計画を理解する
第 28 回		内容	発表①	予習	発表準備をする
				復習	発表を振り返る
第 29 回		内容	発表②	予習	発表準備をする
				復習	発表を振り返る
第 30 回		内容	発表③ 食教育の評価を行う まとめ	予習	食教育プランの評価を行う
				復習	ライフステージ毎の栄養をまとめる
予習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	レポート、課題等にコメントを行う				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（70％）、レポート・課題（10％）、作品・発表（10％）、授業態度（10％）				
教科書	『子どもの食と栄養 - 演習 - 』（岡崎光子編、同文書院）				
参考文献	『子どもの食と栄養演習書』（小川雄二編、医歯薬出版株式会社）他、授業内で随時紹介する				
注意事項	テキストを中心にビデオ・配布資料等の教材を使用した講義が中心となるが、献立作成、食育媒体制作等も含む演習科目である。授業内で指示する事前学習を前提として授業をすすめる。いま保育者に期待されている食指導・支援の重要性を考え、課題や発表に積極的に取り組んで欲しい。随時小テスト、試験、おさらい小テスト等を実施する。授業を通して自身の食生活・健康を振り返り、望ましい生活習慣の確立にも取り組んで欲しい。				

科 目 名	保 育 内 容 総 論		単 位 数	1	実務経験	担当教員 いしかわ のぶまさ 石河 信雅	
ナンバリングコード	EDU22202		授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育場面で、各領域が統合して行われる実際を理解し、保育実践にいかに関わることが事例に基づきながら学んでいく。						
到 達 目 標	1. 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に関する基本事項を理解する。 2. 子どもの発達と保育内容との関連について理解する。 3. 各領域と教育・保育内容について理解し、実際の保育現場での在り方を理解する。 4. 教育・保育の実際を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を見直すことができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・②・3・④・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義について	予習	シラバスを読んでおく		
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する		
	第2回	内容	幼稚園教育要領を概観し、「論」と「実践」の在り方について。	予習	幼稚園教育要領を読んでおく		
				復習	本時の学びを教育要領との関連でまとめる		
	第3回	内容	保育所保育指針を概観し、「論」と「実践」の在り方について	予習	保育所保育指針を読んでおく		
				復習	本時の学びを保育士氏との関連でまとめる		
	第4回	内容	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を概観し、「論」と「実践」の在り方について	予習	教育・保育要領を読んでおく		
				復習	本時の学びをまとめる		
	第5回	内容	各年齢層の保育を遊びを通して学ぶ	予習	子どもと遊びについて調べる		
				復習	幼児期の遊びの重要性についてまとめる		
	第6回	内容	幼児期の人間関係をコミュニケーションに着目して学ぶ	予習	コミュニケーションとは何か調べる		
				復習	コミュニケーション能力についてまとめる		
	第7回	内容	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ1	予習	素話の作成について素案の資料収集をする		
				復習	作成過程の素話について反省的に振り返る		
	第8回	内容	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ2	予習	素話の作成について素案の資料収集をする		
				復習	作成過程の素話について反省的に振り返る		
	第9回	内容	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ・学びの成果を発表する3	予習	発表方法より良い方法について調べる		
				復習	作成した素話・発表について振り返る		
	第10回	内容	望ましい保育者像について	予習	目指すべき保育者像につて文献等で調べる		
				復習	自己を振り返りまとめる		
	第11回	内容	保育をめぐる最近の動向について	予習	保育をめぐる最近の動向について調べる		
				復習	最近の動向についてまとめる		
	第12回	内容	多様性を重視した保育について	予習	発達障害等について調べる		
				復習	発達障害等早期対応についてまとめる		
	第13回	内容	幼児の発達について	予習	幼児の発達について調べる		
				復習	幼児の発達についてまとめる		
	第14回	内容	保幼小の連携について	予習	保幼小の連携について調べておく		
				復習	保幼施用の連携について実践方法をまとめる		
	第15回	内容	これからの保育に求められるものについて	予習	これからの保育について調べる		
				復習	これからの保育について考えをまとめる		
	予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。						
	課題へのフィードバック	日々の講義の中で、レポート等を作成しそのレポートについて朱書きを入れたり、内容について講義中に説明を加えたりする。					
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（50％）、レポート・課題（20％）、作品・発表（10％）、実技（ ）、授業態度（20％）					
教科書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
参考文献	講義の中で適宜提示する						
注意事項	授業を通して、保育内容の総体をイメージし自分自身の中に、あるべき保育活動の構築に取り組んでほしい。						

科 目 名	乳 児 保 育 I		単 位 数	2	実務経験	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナソパ®リンク®コード*	CHS22201		授業形態	講義	有・無		
授 業 の 内 容	乳幼児期における発達の姿を、心、体、生活等といった細かい項目に分け、明確に捉えること、さらにその実践力の習得を目的とする。						
到 達 目 標	1. 新生児、乳児期、幼児期の発達を理解している。 2. 発達にあった保育援助の必要性を理解している。 3. 理論を実践につなげる力の獲得に取り組むことができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・②・③・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	生涯発達という捉え方	予習	シラバスを読んでくる		
				復習	自己の生育歴を考える		
	第 2 回	内容	発達の法則と捉え方	予習	発達とは何かを調べる		
				復習	発達課題をまとめる		
	第 3 回	内容	新生児期と反射	予習	新生児期とは何かを調べる		
				復習	原始反射の意味をまとめる		
	第 4 回	内容	新生児期・乳児期の発達	予習	誕生一年の運動発達を調べる		
				復習	誕生後一年の重要性をまとめる		
	第 5 回	内容	離乳食・食の重要性	予習	自己の食生活をふりかえる		
				復習	食の重要性をまとめる		
	第 6 回	内容	乳児期の母子相互作用	予習	母親の役割について考える		
				復習	母子相互作用をふまえ保育士の役割をまとめる		
	第 7 回	内容	人との関わりの発達と保育援助	予習	保育援助とは何かを考える		
				復習	人間関係の発達と保育援助をまとめる		
	第 8 回	内容	「保育所保育指針」と保育援助	予習	「保育所保育指針」は保育士にとってどんなものか考える		
				復習	「保育所保育指針」の援助ポイントをまとめる		
	第 9 回	内容	「保育所保育指針」：養護の視点	予習	養護とは何かを考える		
				復習	養護のポイントをまとめる		
	第 10 回	内容	「保育所保育指針」：安全の視点	予習	安全とは何かを考える		
				復習	安全管理マニュアルを作成する		
	第 11 回	内容	「保育所保育指針」：教育の視点	予習	教育とは何かを考える		
				復習	教育のポイントをまとめる		
	第 12 回	内容	保育者資質：現場で求められる資質	予習	保育者の求められる資質は何かを考える		
				復習	自己を向上させる資質の磨き方をまとめる		
	第 13 回	内容	保育者資質：ビジネス・ライティング	予習	保育者の求められる技術を考える		
				復習	自己を向上させる技術の磨き方をまとめる		
	第 14 回	内容	乳児保育～文献からの学び～	予習	文献を探してくる		
				復習	文献からの学びをまとめる		
	第 15 回	内容	乳児保育～まとめ～	予習	乳児保育とは何かを考える		
				復習	乳児保育の学びをまとめる		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	毎授業ごとの課題レポートにコメントし返却する						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（100%）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度（ ）						
教科書	なし						
参考文献	『実習育児学』（吉岡毅著、日本小児医事出版）『保育士養成講座：発達心理学』（全国社会福祉協議会） 『保育と保健』（日本保育保健協議会）						
注意事項							

科 目 名	造形表現（指導法）		単 位 数	1	実務経験	担当教員	たけだ まりえ 武田 真理恵
ナパ・リンク・コード	CHS22207		授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	幼児期の造形表現とその指導法について、テキストからだけではなく、実際に現場で用いる多様な教材や用具に触れ、表現や指導を体験することから学ぶ。 幼児の成長に合わせた造形表現活動や遊びを通して豊かな感性を育む道筋を学ぶ。						
到 達 目 標	1. 制作活動を主体的に取り組み自分らしい造形表現が出来る 2. 基礎的知識や技能をもとに多様に応用できる力と自信を身につけている 3. 幼児の造形表現指導に必要な伝わりやすい指導法を身につけている 4. 子どもの発達に応じた表現活動の行動計画を考え構成できる。						
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４・５・６・７） 地域保育学科（①・②・３・４・５） 文化表現学科（１・２・３・４）						
授 業 計 画	第１回	内容	オリエンテーション 造形表現（指導法）の取り組みについて	予習	シラバスを読んでおく		
				復習	授業内容を理解する／折り紙		
	第２回	内容	描く-１ はじめてのクレヨン	予習	クレヨンについて調べる		
				復習	クレヨンについて理解を深める／折り紙		
	第３回	内容	描く-２ 技法を楽しむ	予習	技法について調べる		
				復習	技法について理解を深める／折り紙		
	第４回	内容	立体-１ 生活素材で手づくりおもちゃを作る	予習	手づくりおもちゃについて調べる		
				復習	おもちゃについて理解を深める／折り紙		
	第５回	内容	立体-２ 楽器を作る	予習	作品イメージを決めておく		
				復習	作品を完成させる／折り紙		
	第６回	内容	感性・イメージを豊かにする-１ ひかりと遊ぶ	予習	光について調べる		
				復習	光を使った他の活動を考える／折り紙		
	第７回	内容	遊びを豊かにする-１ 人形遊びについて（ペープサート１）	予習	作品イメージを決めておく		
				復習	作品が仕上がるために準備する／折り紙		
	第８回	内容	遊びを豊かにする-２ 人形遊びについて（ペープサート２）	予習	人形遊びについて調べる		
				復習	人形遊びについて理解を深める／折り紙		
	第９回	内容	遊びを豊かにする-３ 生活とあそびについて（ままごとあそび）	予習	作品イメージを決めておく		
				復習	ままごとあそびを深める／折り紙		
	第１０回	内容	立体-３ 手づくりおもちゃ 指導法を中心に	予習	手づくりおもちゃの指導法について調べる		
				復習	自分なりの指導法を考える／折り紙		
	第１１回	内容	環境・行動を豊かにする-１ 子どもとつくる壁面構成グループワーク	予習	作品イメージを話し合う		
				復習	作品が仕上がるための準備をする／折り紙		
	第１２回	内容	環境・行動を豊かにする-２ 子どもとつくる壁面構成グループワーク	予習	次回必要な材料の準備		
				復習	壁面構成について理解を深める／折り紙		
	第１３回	内容	編む・織る 指先を使った造形表現	予習	編む、織るについて調べる		
				復習	編む、織るについて理解を深める		
	第１４回	内容	遊びを豊かにする造形表現活動 指導計画をつくる、※折り紙課題提出	予習	折り紙課題提出準備		
				復習	指導計画について理解を深める		
	第１５回	内容	造形表現指導まとめとフィードバック	予習	授業をふりかえる		
				復習	授業をふりかえる		
	予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。						
課題へのフィードバック	作成した作品やレポートにコメントを行なう。提出課題のフィードバック（１０回目あたり）						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（２０％）・課題（２０％）、作品・発表（４０％）、授業態度（２０％）						
教科書	『楽しい造形表現』子どもの造形表現研究会 編著 圭文社						
参考文献	『クレヨンからはじめる幼児の描画指導』松浦龍子 黎明書房 ほか						
注意事項	①作品の提出期限を守ること ②授業に必要な道具や材料は各自責任を持って準備すること ③製作に要する材料費は本人負担 ④グループワークは人に任せず、積極的に関わること						

科 目 名	健 康		単 位 数	1	実務経験	担当教員	しん どのぶゆき 新戸 信之
ナソパ・リンク・コード	CHS22101		授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。						
到 達 目 標	1. 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解し、説明できる。 2. 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解し、説明できる。 3. 安全な生活と怪我や病気の予防について理解し、説明できる。 4. 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明できる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科 ①・②・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内 容	保育現場の現状と「生きる力」について	予 習	生きるために必要な力とその獲得方法を考える。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 2 回	内 容	健康の定義と乳幼児の健康	予 習	健康のためにしていることについて家族と話す。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 3 回	内 容	乳幼児期の健康課題	予 習	自分の乳幼児期の健康状態について家族と話す。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 4 回	内 容	乳幼児期の発育と発達	予 習	出生時～5 歳時の自分の身長と体重を調べる。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 5 回	内 容	幼児の心の健康と自己肯定感	予 習	「自己肯定感」について web で調べる。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 6 回	内 容	基本的な生活習慣の獲得とその意義	予 習	5 歳児の自分の起床時間と就寝時間について、家族から聞き取る。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 7 回	内 容	「食」に対する意識付けの意義	予 習	全国各地の伝統食について web で調べる。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 8 回	内 容	乳幼児期の運動発達	予 習	自分が「初めてできた事」が何歳であったのか、家族から聞き取る。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 9 回	内 容	幼児の日常生活における身体活動	予 習	日常生活における、幼児の身体活動をリストアップする。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 10 回	内 容	幼児期の運動遊びの重要性	予 習	運動遊びの種類を調べる。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 11 回	内 容	自然に触れること、戸外で遊ぶことの重要性	予 習	自然に触れる遊びをリストアップする。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 12 回	内 容	保育現場におけるリスクとハザード	予 習	リスクとハザードの違いについて調べる		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 13 回	内 容	リスクマネジメントについて	予 習	公園から消えた「動く遊具」について調べる。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 14 回	内 容	傷病の予防と応急処置	予 習	乳幼児に多いケガや病気について調べる。		
				復 習	授業内容を振り返り、まとめる。		
	第 15 回	内 容	子どもの健康に果たす保育者の役割 まとめ	予 習	保育園や幼稚園で自分を担任した先生の言動を思い出す。		
				復 習	ノートをまとめる。		
予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	小テストにより理解度を確認し、必要に応じた解説をする。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度（20%）						
教科書	必要に応じて資料を配布						
参考文献	幼児期の食事と健康 - 公益社団法人 千葉県栄養士会【WEB】、幼児期運動指針：文部科学省【WEB】 幼児期の運動遊びが生涯の体力を左右する - 健康・体力づくり事業財団【WEB】						
注意事項							

科 目 名	人間関係		単 位 数	1	実務経験	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナシバ・リンダ・コート	CHS22102	授業形態	演習	有・無			
授 業 の 内 容	保育内容の領域の一つに、人とかかわりに関する領域「人間関係」が設けられている。本講義では、領域「人間関係」に関連する社会学や発達心理学などの理論をベースとした基礎知識を押さえるとともに、乳児期、幼児期のそれぞれの発達過程において、どのように人と関わる力が育つのかを学ぶ。また、保育者の保護者への対応や保育者同士の連携も含めた保育者の果たす役割を学ぶ。						
到 達 目 標	1. 領域「人間関係」を理解するのに必要な基礎知識を身につけている。 2. 3 歳未満児における人間関係がどのように発達するのかを理解している。 3. 幼児期の生活や遊びの中で見られる人と関わる力がどのように育つかを理解している。 4. 保育者の保護者への対応や保育者同士の連携といった保育者の役割を理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・②・3・④・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	現代社会と幼児の人間関係―家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの	予習	教科書の全体に目を通す		
				復習	現代社会と幼児の人間関係をノートに整理する		
	第 2 回	内容	領域「人間関係」のめざすもの	予習	領域「人間関係」、プリントの穴埋めをする		
				復習	領域「人間関係」をノートに整理する		
	第 3 回	内容	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係―乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する	予習	幼児期の資質・能力と人間関係、プリント穴埋め		
				復習	幼児期の資質・能力と人間関係を整理する		
	第 4 回	内容	3 歳未満児における人間関係の発達―身近な大人との関係を基盤として育つ子ども	予習	3 歳未満児の人間関係、プリントの穴埋めをする		
				復習	3 歳未満児の人間関係をノートに整理する		
	第 5 回	内容	3 歳未満児における人間関係の発達―愛着形成過程におけるリスク要因	予習	愛着形成過程、プリントの穴埋めをする		
				復習	愛着形成過程をノートに整理する		
	第 6 回	内容	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち―関係性の育ちを視点として	予習	幼児期の人と関わる力、プリントの穴埋め		
				復習	幼児期の人と関わる力をノートに整理する		
	第 7 回	内容	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち―集団の育ちを視点として	予習	幼児期の人と関わる力（集団）、プリント穴埋め		
				復習	幼児期の人と関わる力（集団）を整理する		
	第 8 回	内容	乳幼児期の自立心の育ち―甘え	予習	自立心の育ち（甘え）、プリントの穴埋めをする		
				復習	自立心の育ち（甘え）をノートに整理する		
	第 9 回	内容	乳幼児期の自立心と育ち―「イヤ」「ジブンデ」	予習	自立心と育ち（イヤ・ジブンデ）、プリント穴埋め		
				復習	自立心と育ち（イヤ・ジブンデ）を整理する		
	第 10 回	内容	幼児期の協同性の育ち―友達とのつながり	予習	協同性の育ち、プリントの穴埋めをする		
				復習	協同性の育ちをノートに整理する		
	第 11 回	内容	幼児期の協同性の育ち―目標の共有と協力してやり遂げようとする力の育ち	予習	協同性の育ち（目標の共有）、プリントの穴埋め		
				復習	協同性の育ち（目標の共有）をノートに整理する		
	第 12 回	内容	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち―他者とかつ藤体験を通してきまりの必要性を理解する	予習	道徳性・規範意識の芽生え、プリントの穴埋め		
				復習	道徳性・規範意識の芽生えをノートに整理する		
	第 13 回	内容	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち―気持ちを調整して折り合いをつける力の育ち	予習	気持ちを調整する力、プリントの穴埋めをする		
				復習	気持ちを調整する力をノートに整理する		
	第 14 回	内容	乳幼児期の人間関係のひろがる場と関係性―家庭生活～園生活へ	予習	家庭生活から園生活、プリントの穴埋めをする		
				復習	家庭生活から園生活をノートに整理する		
	第 15 回	内容	乳幼児期の人間関係のひろがる場と関係性―園生活～地域へ、まとめ	予習	これまでの内容を整理する		
				復習	学んだ内容を整理する		
予習に要する学習時間：概ね 4 5 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 4 5 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	レポート及び小テストを返却し、コメントを伝える。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（70％）、レポート・課題（20％）、授業態度（10％）						
教科書	『コンパス 保育内容 人間関係』（岸井慶子・酒井真由子編著、建帛社）						
参考文献	授業において紹介する。						
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞くこと、また自分自身の体験とつなげて考えることで、学びを深めてほしい。						

科 目 名	造形表現		単 位 数	1	実務経験	担当教員	おぐち	すぐる
ナソパ・リンク・コート	CHS22105		授業形態	演習	有・無		小口	偉
授 業 の 内 容	乳幼児期の造形的表現方法は、発達段階を踏まえ、適切な素材提供をすることが、活動に広がりとお興行きをもたらす。子どもの活動をもとにした活動体験をすることから、「素材、道具について」の造形的側面と、「乳幼児の表現活動について」の心身の発達における側面から、造形を通じた表現について理解、関心を深める。							
到 達 目 標	1. 子どもたちの表現活動の意義を理解している。 2. 年齢やクラス編成ごとに変化する活動内容に応じた環境づくりができる。 3. 子どもたちと活動が楽しめる技術、視点、方法を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科 ①②・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）							
授 業 計 画	第 1 回	内 容	素材体験 1 紙について 質感で遊ぶ	予習	参考書等の紙の活動に関することを読み込む			
				復習	身近な紙の触り心地を確かめておく			
	第 2 回	内 容	素材体験 2 グループワーク 紙について 2 空間を使って遊ぶ	予習	遊ぶこととは何かノートに書き出し持参する。			
				復習	体験を通して空間を使って遊ぶこととは何か自分なりに考え、まとめる。			
	第 3 回	内 容	素材体験 3 クレヨン、パスについて	予習	参考書等のクレヨン、パスに関する項目を読み込む。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 4 回	内 容	素材体験 4 グループワーク 粘土について	予習	参考書等の粘土に関する記述について読む。			
				復習	体験内容をノートにまとめる。			
	第 5 回	内 容	素材体験 5 グループワーク シート系素材について	予習	参考書等のハサミに関する記述について、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 6 回	内 容	道具体験 1 ハサミについて	予習	参考書等のステープラーに関する記述について、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 7 回	内 容	道具体験 2 ステープラーについて	予習	参考書等の接着に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 8 回	内 容	応用 1 構成遊びについて 1 色画用紙での構成遊び	予習	構成遊びについて調べる。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 9 回	内 容	応用 2 構成遊びについて 2 与えられたきっかけから画面構成 1	予習	構成遊びについて調べる。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 10 回	内 容	応用 3 構成遊びについて 3 与えられたきっかけから画面構成 2 発表	予習	構成遊びについて調べ、まとめたノートを持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 11 回	内 容	応用 4 様々な技法遊び デカルコマニー/スクラッチ	予習	技法遊びについて5つの種類とその方法を調べ、まとめたものを持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 12 回	内 容	立体の扱いについて「紙立体」 合同制作 と共同制作を体験する	予習	参考書の紙立体に関する記述について、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 13 回	内 容	生活素材を使って制作体験	予習	造形素材として使用できる可能性のあるものを集めておく。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 14 回	内 容	工作 1 動かして遊ぶ「紙工作」	予習	参考書の紙工作に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第 15 回	内 容	振り返り ドキュメンテーション作成	予習	ドキュメンテーションについて調べ、まとめたノートを持参する。(60分)			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。								
課題へのフィードバック	各提出課題に対し採点をする。返却の際に保育現場での実践方法や注意点などをその都度伝える。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ ）、レポート・課題（20%）、作品・発表（40%）、実技（ ）、授業態度（40%）							
教科書	『保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領』平成29年3月31日告示							
参考文献	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）『保育園・幼稚園の造形あそび』（鮫島良一,馬場千晶、成美堂出版)							
注意事項	出来映えは重視しません。誠実に、積極的に取り組むこと。 ※ 作品制作に関わる道具、材料費は個人負担です。(1600円)。							

科 目 名	音楽・身体表現	単 位 数	1	実務経験	担当教員	おおわこういち しおさき 大輪 公 彦・塩 崎 みづほ
ナソバ・リンク・コート*	CHS22106	授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	領域「表現」における音楽・身体表現の指導法に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。					
到 達 目 標	1. 見る・聴く・動くなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2. 生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができている。 4. 他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。 5. ソルフェージュ（音感教育）をベースに唱歌・童謡における基本的な音楽要素を下記の訓練を通して身に付け、かつピアノ・打楽器演奏及び歌唱法が理解できる。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（① 2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授 業 計 画	第 1 回	内容	「表現とは」 領域「表現」のねらい及び内容について理解する	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる	
				復習	本時の内容についてノートにまとめる	
	第 2 回	内容	「乳幼児の表現」 保育者として受け止める視点についてグループ討議し、その大切さについて考える。	予習	乳幼児期の表現の特徴について、調べる	
				復習	本時の討議の内容をノートにまとめる	
	第 3 回	内容	「身体表現とは」 豊かな表現を引き出すための保育者の役割や、題材について討議する。	予習	乳幼児期の運動発達についての箇所を読んでくる	
				復習	身体表現の題材についてまとめる	
	第 4 回	内容	「生活の中での身体表現」 生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して、豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。	予習	生活の中での身体表現の題材について考えてくる	
				復習	本時の内容をノートにまとめる	
	第 5 回	内容	「絵本と身体表現」 絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる	
				復習	本時の内容についてノートにまとめる	
	第 6 回	内容	「自然と身体表現」 自然を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	自然素材について探してくる	
				復習	本時の内容をノートにまとめる	
	第 7 回	内容	「ICTを使った身体表現」 ICT を利活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。	予習	ICTの意味について調べ活用方法について考えてくる	
				復習	活用の仕方、操作の仕方の練習をする	
	第 8 回	内容	楽典①譜表：五線譜の成り立ちならびにト音・ヘ音記号の記譜。	予習	資料を熟読し、要点をレポートにまとめる。	
				復習	プリント資料の五線紙へ音部記号を書く。	
	第 9 回	内容	楽典②音名・階名：ラテン語（伊・仏）、及び英・日における音符の読み書き。	予習	資料を熟読し、要点をレポートにまとめる。	
				復習	プリント資料の五線紙へ音符及び音名を書く。	
	第 10 回	内容	楽典③楽語・音程・調：伊語による基本的な楽語ならびにインターヴァルと調性の理解。	予習	資料を熟読し、要点をレポートにまとめる。	
				復習	プリント資料へ楽語、音程、調性を書き込む。	
	第 11 回	内容	楽典④音・休符の種類と和音：音・休符、和音の名称とその内容への理解。	予習	資料を熟読し、要点をレポートにまとめる。	
				復習	プリント資料へ音・休符・和音と名称を記入。	
	第 12 回	内容	リズム及び書き取りの基本：基礎的なリズムを拍子とともに理解し、ディクテーションの方法を学ぶ。	予習	資料を熟読し、要点をレポートにまとめる。	
				復習	書き取ったものを再度演奏して確認する。	
	第 13 回	内容	リズムカノン唱とリズム叩き：カノン形式への理解と、カノン唱及びリズム叩きを学ぶ。	予習	資料を参照しカノンをレポートへまとめる。	
				復習	カノン唱・リズム叩きを再度演奏し確認する。	
	第 14 回	内容	リズム諸楽器（打楽器）の解説とリズム楽器演奏：リズム楽器の絵図をまとめ、リズム楽器を実演する。	予習	資料を参照し打楽器をレポートへまとめる。	
				復習	絵図のまとめと手拍子によるリズムの再演奏。	
	第 15 回	内容	学習まとめの発表：唱歌・童謡を任意選択し妥当と思われるリズム楽器を付して演奏。	予習	資料を参照し選択した作品をレポートへ記す。	
				復習	無伴奏による歌唱に打楽器を付し再演奏。	
予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	提出を求めた課題レポート等に対しては、添削を施し返却・解説する。また簡易な実技演奏に関しては可能な限り個別に対応しながらコメントを行う。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（20%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度（20%）					

教科書	なし
参考文献	『新・幼児の音楽教育』（井口太編、朝日出版社） 『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子編、カワイ出版）
注意事項	成績評価は授業内でのレポート等による。 授業内での飲食、スマートフォンの使用、私語は厳禁。

科 目 名	音楽Ⅰ	単 位 数	1	実務経験	担当教員	おおわ こういち 大輪 公彦 他
ナソバ・リンク・コード	E D S 22101	授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、音楽の基礎的な知識や理論（楽典）、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を並行して行う。6名前後のグループの半数が個人レッスン、それ以外の半数はクラス授業を受講し、45分で交代する。					
到 達 目 標	1. 基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 2. 幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 3. 保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション 授業内容、進め方について	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第2回	内容	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No. 1～8	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第3回	内容	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No. 9～16	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第4回	内容	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No. 17～24	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第5回	内容	ハ長調の下属和音 教本 No. 25～26	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第6回	内容	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No. 27～32	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第7回	内容	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No. 33～38	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第8回	内容	いろいろな伴奏形①・②・③・④ 教本 No. 39～42	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第9回	内容	高い音の練習 教本 No. 43～46	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第10回	内容	3/8拍子と6/8拍子 教本 No. 47～48 生活のうたの弾き歌い①	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第11回	内容	付点4分音符を用いたリズム 教本 No. 49～54 生活のうたの弾き歌い②	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第12回	内容	ハ長調の音階 教本 No. 55～58 生活のうたの弾き歌い③	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第13回	内容	ヘ長調の音階 教本 No. 59～61 生活のうたの弾き歌い④	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第14回	内容	ト長調の音階 教本 No. 62～67 生活のうたの弾き歌い⑤	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第15回	内容	これまでの授業のまとめと発表	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
予習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。						
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 20%）、作品・発表（ 30%）、実技（ 50%）					
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた 100』（小林美実 他、チャイルド本社）					
参考文献						
注意事項						

科 目 名	音楽Ⅱ	単 位 数	1	実務経験	担当教員	おおわ こういち 大輪 公彦 他
ナソバ・リンク・コート	E D S 22102	授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、音楽の基礎的な知識や理論（楽典）、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を並行して行う。6名前後のグループの半数が個人レッスン、それ以外の半数はクラス授業を受講し、45分で交代する。					
到 達 目 標	1. 基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 2. 幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 3. 保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・2・3・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）					
授 業 計 画	第 1 回	内 容	臨時記号と半音階 教本 No. 68～69 季節のうた（春）弾き歌い①	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 2 回	内 容	16 分音符を用いたリズム 教本 No. 70～72 季節のうた（春）弾き歌い②	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 3 回	内 容	イ短調の主要三和音 教本 No. 73～76 季節のうた（春）弾き歌い③	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 4 回	内 容	6 度・3 度の重音 教本 No. 77～78 季節のうた（夏）弾き歌い①	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 5 回	内 容	3 連符 教本 No. 79～80 季節のうた（夏）弾き歌い②	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 6 回	内 容	へ長調よりハ長調への転調 教本 No. 81 季節のうた（夏）弾き歌い③	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 7 回	内 容	3 度の重音と 8 度の跳躍 教本 No. 82 季節のうた（秋）弾き歌い①	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 8 回	内 容	弱起の曲 教本 No. 83～84 季節のうた（秋）弾き歌い②	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 9 回	内 容	二 長 調 と 二 短 調 の 主 要 三 和 音 教本 No. 85～86 季節のうた（秋）弾き歌い③	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 10 回	内 容	装飾音 教本 No. 87～90 季節のうた（冬）弾き歌い①	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 11 回	内 容	複付点音符 教本 No. 91 季節のうた（冬）弾き歌い②	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 12 回	内 容	教本 No. ～92～94 季節のうた（冬）弾き歌い③	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 13 回	内 容	マーチ、その他① 教本 No. 95～98	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 14 回	内 容	マーチ、その他② 教本 No. 99～102	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
	第 15 回	内 容	マーチ、その他③ 教本 No. 103～107	予習	課題曲の予習	
				復習	指導を受けた事項を中心に練習する	
予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ○ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 20%）、作品・発表（ 30%）、実技（ 50%）					
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた 100』（小林美実 他、チャイルド本社）					
参考文献						
注意事項						

科 目 名	教育方法・技術論	単 位 数	1	実務経験	担当教員	とうま ゆうこ 當麻 祐子
ナソバ`リンク`コート`	EDU22203	授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	幼児教育における教育方法と技術に関する基本的な事柄について学ぶ。 また、保育の実践やねらいなどを伝える色々な方法を学ぶ。 教材制作の技術と方法について学び、教材を作成して発表する。 情報機器を活用した教材も作成し、プレゼンテーションを行い、学び合う。					
到 達 目 標	1. 幼児期の特性を理解し、具体的な教育方法について考察できる 2. 保育の実践や、そのねらいなどを適切に伝える方法を理解している 3. 教育目標に即した教材を、情報機器などを使って作成できる 4. 学生相互が発表する機会をもち、プレゼンテーション能力や聞く態度を身に付けている					
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４・５・６・７）地域保育学科（①・②・３・４・⑤）文化表現学科（１・２・３・４）					
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション・教育方法とは何か	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	授業の進め方や習得すべきことを理解する	
	第 2 回	内容	幼児期の特性について	予習	幼児の発達を調べる	
				復習	幼児期の生活や発達をまとめる	
	第 3 回	内容	幼児と環境について	予習	色々な環境を考える	
				復習	幼児と環境の関係をまとめる	
	第 4 回	内容	幼児期の遊びについて	予習	自分の幼児期の遊びを思い出しておく	
				復習	遊びの捉え方の変化を記録する	
	第 5 回	内容	子ども理解① ～ビデオから学ぶ（グループワーク）～	予習	自分が持つ子どもイメージを考える	
				復習	学んだ後の子どもイメージをまとめる	
	第 6 回	内容	子ども理解② ～エピソードから学ぶ～	予習	子どもの行動に注目してみる	
				復習	注目するポイントをまとめる	
	第 7 回	内容	ワーク～物語とペープサート制作～	予習	教材にしたい物語を選んでくる	
				復習	次週までに完成しておく	
	第 8 回	内容	発表～ペープサートの発表と評価～	予習	発表に向けて練習しておく	
				復習	自己と他者の評価をまとめる	
	第 9 回	内容	発表～子どもの育ちをどう伝えるか～	予習	保護者への伝達方法を考える	
				復習	伝達方法の色々をまとめる	
	第 10 回	内容	プレゼンテーションソフトの活用① ～おたよりの作成～	予習	おたよりに必要な事項を調べる	
				復習	おたより作成のポイントを整理する	
	第 11 回	内容	プレゼンテーションソフトの活用① ～発表資料の収集～	予習	発表したい教材内容を考える	
				復習	情報収集のルールを確認する	
	第 12 回	内容	プレゼンテーションソフトの活用① ～発表に向けた制作～	予習	資料を集めておく	
				復習	見直し、工夫する	
	第 13 回	内容	プレゼンテーションの技法① ～個人発表と意見交換①～	予習	発表の練習をしておく	
				復習	自分なりに振り返り、まとめる	
	第 14 回	内容	プレゼンテーションの技法② ～個人発表と意見交換②～	予習	他学生のテーマを確認しておく	
				復習	他学生から学んだことをまとめる	
	第 15 回	内容	プレゼンテーションの技法③ ～個人発表と意見交換③・まとめ～	予習	授業全体の振り返りをしておく	
				復習	学んだことや自己課題を整理する	
予習に要する学習時間：概ね 2 0 分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね 2 5 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	前回の課題を全体で振り返り、確認したり新たな気づきにつなげる					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 2 0 ％）、レポート・課題（ 4 0 ％）、作品・発表（ 2 0 ％）、実技（ ）％、授業態度（ 2 0 ％）					
教科書	オリジナルのパワポスライドを使用（適宜配布）					
参考文献	「幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（チャイルド本社）					
注意事項	大切な幼児期の保育教育に携わる為の勉強であることを自覚して臨むこと。各自の進捗に応じて課題の制作を進めておくこと。					

科 目 名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営		単 位 数	2	実務経験	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子	
ナンバリングコード	EDU22203		授業形態	講義	有・無			
授 業 の 内 容	児童館は、子どもに健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉法による児童厚生施設である。そして、放課後児童クラブは、同法に基づき小学生のうち、保護者が昼間家庭にいないものに、適切な遊び及び生活の場を与え、健全な育成を図る事業である。授業では、児童館・放課後児童クラブの歴史、目的、役割、利用状況、現状・課題を学んでいく。							
到 達 目 標	1．児童館・放課後児童クラブの機能や地域における役割を理解している。 2．児童館・放課後児童クラブにおける子育て支援や児童の健全育成を理解している。 3．児童館が小学生及び中・高生の居場所づくりなど、地域の核となる児童福祉施設として重要な役割を担っていることを理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7） 地域保育学科（①、2・3・4・5） 文化表現学科（1・2・3・4）							
授 業 計 画	第 1 回	内 容	児童厚生員とその資格の説明	予 習	シラバスを読んでおく			
				復 習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第 2 回	内 容	児童館・放課後児童クラブの説明	予 習	教科書「児童館の概要」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 3 回	内 容	現代の子どもたちの遊び環境	予 習	教科書「児童館の施設特性」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 4 回	内 容	法的根拠・事業目的	予 習	教科書「事業目的」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 5 回	内 容	児童館・放課後児童クラブの種別及び機能	予 習	教科書「施設規模別特徴」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 6 回	内 容	小型児童館・児童センター・大型児童館の設置及び運営	予 習	教科書「施設特性」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 7 回	内 容	児童館ガイドライン	予 習	教科書「ガイドライン」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 8 回	内 容	職員の役割	予 習	教科書「児童厚生員の役割」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 9 回	内 容	放課後児童健全育成事業の概要と実態	予 習	教科書「放課後児童クラブ」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 10 回	内 容	放課後児童クラブの現状と課題	予 習	教科書「クラブの現状」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 11 回	内 容	小学生・中学生・高校生の対応	予 習	教科書「児童館の機能」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 12 回	内 容	児童館の活動内容と事例	予 習	教科書「児童館プログラム」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 13 回	内 容	放課後児童クラブの活動内容と事例	予 習	教科書「実践事例」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 14 回	内 容	子育て支援	予 習	教科書「子育て支援」の章を読んでおく			
				復 習	プリントを中心に内容をまとめる			
	第 15 回	内 容	これまでのまとめ	予 習	教科書・プリントの内容を整理する			
				復 習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る			
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。						
	成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（50％）、課題（20％）、授業態度（30％）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。						
教科書	『児童館論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）							
参考文献	なし							
注意事項								

科 目 名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法		単 位 数	2	実務経験	担当教員	いがき としろう 井垣 利 朗	
ナンバリングコード	EDU22105		授業形態	講義	有・無			
授 業 の 内 容	児童ソーシャルワークをベースとした児童館・放課後児童クラブの活動概要、行事の企画立案法、利用者への対応、地域とのかかわり等、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を理解する。授業の中で児童館活動事例の映像と子どもの遊びを紹介し、実践的な指導スキルが身につくことを目的とする。							
到 達 目 標	1. 児童館・放課後児童クラブの機能と役割、活動の概要を提示することができる。 2. 地域の子育て支援のエキスパートとして、児童のソーシャルワークスキルを身につけている。 3. 子育て支援法、ボランティアの育成法等の実施方法を身につけている。 4. 現場における実践可能なプログラムの企画立案ができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４・５・６・７）地域保育学科（１・②・③・④・５）文化表現学科（１・２・３・４）							
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション（児童館・放課後児童クラブの一日、年間の流れ）	予習	シラバスを読む。			
				復習	児童館の一日について理解をする。			
	第 2 回	内容	児童館の概要（児童館の歴史と設置目的、法的根拠、児童館ガイドライン等）	予習	児童館ガイドラインの第 1 章を読む。			
				復習	児童館の機能と役割を理解し整理する。			
	第 3 回	内容	子どもの発達と遊びの支援の実際（グループワーク）	予習	小学生の好きな遊びを調査する。			
				復習	子どもの発達と遊びについてまとめる。			
	第 4 回	内容	子どもの遊びを通した健全育成（実技）	予習	子どもの現状を表すキーワードを調査する。			
				復習	子どもの遊びの効用を理解する。			
	第 5 回	内容	子どもの居場所づくりと保護者への子育て拠点事業	予習	児童館の活動についてレポートを作成する。			
				復習	居場所づくりの必要性について考える。			
	第 6 回	内容	ボランティアの育成と地域連携	予習	ボランティア体験の感想を整理する。			
				復習	ボランティアと地域連携の必要性を理解する。			
	第 7 回	内容	放課後児童クラブの概要（法的根拠、活動内容、育成支援の内容、放課後児童クラブ運営指針等）	予習	放課後児童クラブのレポートを作成する。			
				復習	放課後児童クラブ運営指針を読む。			
	第 8 回	内容	子育て子育て支援を行う乳幼児活動（実技）	予習	児童館の乳幼児活動の事例を調査する。			
				復習	子育て支援における配慮する点を理解する。			
	第 9 回	内容	体験・自己実現を目指す小学生活動（仲間づくり、支援法）	予習	児童館の小学生活動の事例を調査する。			
				復習	小学生活動の配慮する点を理解する。			
	第 10 回	内容	地域社会と結びつける中高生活動（地域連携、子どもの意見を取り入れた活動）	予習	児童館の中高生活動の事例を調査する。			
				復習	中高生活動の配慮する点を理解する。			
	第 11 回	内容	子どものニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（グループワーク）	予習	イベント企画立案の課題を作成する。			
				復習	イベント企画立案の手法を整理する。			
	第 12 回	内容	グループ企画発表会と講評（発表）	予習	グループ企画発表の事前準備をする。			
				復習	イベント企画の留意点を理解する。			
	第 13 回	内容	児童厚生員の職務と子どもの接し方（実技）	予習	児童館ガイドライン第 5 章を読む。			
				復習	児童厚生員の職務を理解する。			
	第 14 回	内容	児童館・放課後児童クラブの運営（倫理、安全管理、防犯防災対策等）	予習	子どもの安全管理について考える。			
				復習	児童館の運営について理解する。			
	第 15 回	内容	まとめ（児童館・放課後児童クラブに求められる社会的課題）	予習	児童館の必要性のレポートを作成する。			
				復習	児童館の社会的課題と必要性を整理する。			
	予習に要する学習時間：概ね 1 0 0 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。							
	課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う。						
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（１５％）、作品・発表（１５％）、実技（１５％）、授業態度（５５％）						
教科書	「なし」 毎回、資料を配布する。							
参考文献	『児童館論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）、『健全育成論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団） 『児童館の機能と運営』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）							
注意事項	・課題は、期限を厳守すること。 ・欠席回数が、全授業の 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象外となる。							

科 目 名	児童文化（感受性開発を含む）		単 位 数	2	実務経験	担当教員	あさぎ　　なおり 浅木　　尚実
ナンバリングコード	EDU22204		授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	子どもの文化は、しあわせな子ども時代を実現できる学問であることを理解する。児童文化財（わらべうた、手遊び、絵本、おはなし、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、おもちゃ等）全般に亘って、知識を深める。保育士、保護者、子どもが、相互に交流できる楽しいコミュニケーションの仕方を学ぶ。						
到 達 目 標	1. 子どもの文化（手遊び、わらべ歌、絵本、パネルシアター等）の知識を習得することができる。 2. 文化財の表現の仕方と実技力を習得することができる。 3. 楽しみながら、制作、実演し、自らの感性を高めることができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（①・②・③・④・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第1回	内容	児童文化の概念の成立と変遷	予習	シラバスを読んでおく。		
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する。		
	第2回	内容	子ども観の歴史	予習	子ども観とは何かを調べる。		
				復習	子ども観の歴史をまとめる。		
	第3回	内容	子どもの文化財の背景と特色1：わらべ歌・手遊び	予習	わらべ歌、手遊びについて調べる。		
				復習	わらべ歌、手遊びについてまとめる。		
	第4回	内容	子どもの文化財のグループ演習①：わらべ歌・手遊び（アクティブ・ラーニング）	予習	わらべ歌、手遊びを習得する。		
				復習	わらべ歌、手遊びについて復習する。		
	第5回	内容	子どもの文化財のグループ演習②：わらべ歌・手遊び（アクティブ・ラーニング）	予習	わらべ歌、手遊びを習得する。		
				復習	わらべ歌、手遊びについて復習する。		
	第6回	内容	子どもの文化財の背景と特色2：手袋人形	予習	手袋人形と子どもの発達について調べる。		
				復習	手袋人形と子どもの発達についてまとめる。		
	第7回	内容	子どもの文化財のグループ演習①：ミトンぐまを作る。	予習	製作の準備をする。		
				復習	製作手順を理解する。		
	第8回	内容	子どもの文化財のグループ演習②：ミトンぐまを演じる。	予習	製作手順を整理しておく。		
				復習	演じる手順をまとめる。		
	第9回	内容	子どもの文化財の背景と特色3：絵本の歴史	予習	絵本の歴史を調べる。		
				復習	絵本の歴史をまとめる。		
	第10回	内容	子どもの文化財の背景と特色4：絵本とは何か？	予習	絵本とは何かを調べる。		
				復習	絵本とは何かをまとめる。		
	第11回	内容	子どもの文化財の背景と特色5：絵本の特色	予習	絵本の特色を調べる。		
				復習	絵本の特色をまとめる。		
	第12回	内容	子どもの文化財のグループ演習①：絵本を読む（アクティブ・ラーニング）	予習	絵本を多読し、選ぶ。		
				復習	絵本と読み方をまとめる。		
	第13回	内容	子どもの文化財のグループ演習②：絵本の読み方（アクティブ・ラーニング）	予習	絵本を多読し、選ぶ。		
				復習	絵本と読み方をまとめる。		
	第14回	内容	発表 絵本の読み聞かせ実践①（アクティブ・ラーニング）	予習	発表する絵本を読んで練習する。		
				復習	発表の振り返りをする。		
	第15回	内容	発表 絵本の読み聞かせ実践②（アクティブ・ラーニング）	予習	発表する絵本を読んで練習する。		
				復習	発表の振り返りをする。		
	第16回	内容	手作りおもちゃ制作① デザインを考える。	予習	手作りおもちゃ製作の準備をする。		
				復習	手作りおもちゃ製作手順を整理する。		
	第17回	内容	手作りおもちゃ制作② 制作する。	予習	手作りおもちゃ製作の手順を理解する。		
				復習	材料の準備をする。		
	第18回	内容	グループ発表：夏祭り（アクティブ・ラーニング）	予習	指導の手順を理解する。		
				復習	指導の振り返りをする。		
	第19回	内容	子どもの文化財のグループ演習①：季節の行事・遊び	予習	日本の季節の行事、遊びを調べる。		
				復習	日本の季節の行事、遊びをまとめる。		

	第 20 回	内容	子どもの文化財の背景と特色 7：パネルシアターとは何か？	予習	パネルシアターと何かを調べる。
				復習	パネルシアターと何かをまとめる。
授 業 計 画	第 21 回	内容	パネルシアター制作①： 型紙をとる。 デザインをする。	予習	パネルシアター製作の準備をする。
				復習	パネルシアター製作の手順を整理する。
	第 22 回	内容	パネルシアター又はエプロンシアター制作②：P ペーパーに型どりする。パーツを作成する。	予習	パネルシアター製作を理解する。
				復習	パネルシアター製作を振り返る。
	第 23 回	内容	パネルシアター又はエプロンシアター制作③：色を塗る。 エプロンの仕掛けを作成する。	予習	パネルシアター製作を理解する。
				復習	パネルシアター製作の見直しをする。
	第 24 回	内容	パネルシアター又はエプロンシアター制作④ 脚本を作成する。	予習	演じ方作成する。
				復習	演じ方をまとめる。
	第 25 回	内容	パネルシアター又はエプロンシアター制作⑤ 各自リハーサルを行う。	予習	リハーサルの準備をする。
				復習	リハーサルの振り返りを行う。
	第 26 回	内容	発表 発表の仕方を学ぶ。(アクティブ・ラーニング)	予習	発表の準備をする。
				復習	発表全般を振り返る。
	第 27 回	内容	発表 発表する。(アクティブ・ラーニング)	予習	発表の準備をする。
				復習	発表全般を振り返る。
	第 28 回	内容	発表 発表を振り返る。(アクティブ・ラーニング)	予習	発表の準備をする。
				復習	発表全般を振り返る。
	第 29 回	内容	発表 質疑応答。	予習	パネルシアター全般を整理する。
				復習	発表全般をまとめる。
	第 30 回	内容	まとめ	予習	児童文化の知識、方法等を整理する。
				復習	児童文化の知識、方法等をまとめる。
予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	発表後に、各自振り返りシートに記入する。クラスにて発表内容の振り返りを行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（ 60 %）、作品・発表（ 30 %）、実技（ %）、授業態度（10 %）				
教科書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）				
参考文献	その都度紹介する。				
注意事項	児童文化に関する講義と演習をテーマごとに交互に行うため、準備、復習を行うこと。 制作に必要な材料を準備すること。ミトンぐまキット代 1000 円の準備。 各自、発表の準備を行うこと。				

科 目 名	地域活動Ⅰ		単 位 数	2	実務経験	担当教員	ほしの　いとう　きたの　か が や 星野・伊藤・北野・加賀谷
ナンバリングコード	SWS22105		授業形態	演習	有・無		
授 業 の 内 容	保育の専門家を目指して入学した 1 年次生が、本学科の理念の一つである「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、本学の所在地である所沢市を中心とする地域活動に参加することで、様々な人々と接し、保育者としての役割や地域の社会資源の重要性を理解する。活動後には、省察（振り返り）を行う。						
到 達 目 標	1．「地域」や「ボランティア」という概念を理解している。 2．大学所在地およびその近隣地域での、社会活動の取り組みを知る。 3．学校から指定された活動への参加を通して、子育ての現状や地域のニーズを把握する。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（1・②・③・4・⑤）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを読み、授業計画を把握する。		
				復習	授業の進め方・評価方法を理解する。		
	第 2 回	内容	授業のねらい	予習	資料を読んでくる。		
				復習	資料を読み直し、疑問的を整理する。		
	第 3 回	内容	各種資料の配布と確認	予習	大学の HP で過去の地域活動を調べる。		
				復習	配布資料を整理し、ファイルにまとめる。		
	第 4 回	内容	「ボランティア」とは何か①：今日的な課題	予習	ボランティアの言葉の意味を調べる。		
				復習	ボランティアの理念について整理する。		
	第 5 回	内容	「ボランティア」とは何か②：歴史	予習	ボランティアの種類について調べる。		
				復習	ボランティアの歴史について整理する。		
	第 6 回	内容	「ボランティア」とは何か③：理念	予習	身近なボランティアについて調べる。		
				復習	ボランティアの今日的な課題を整理する。		
	第 7 回	内容	「地域」とは何か：	予習	居住地域の基本情報を調べる。		
				復習	居住地域の特徴を整理する。		
	第 8 回	内容	上級生によるボランティア体験の報告	予習	過去の体験報告を読んでくる。		
				復習	体験報告の感想をまとめる。		
	第 9 回	内容	地域での活動について	予習	大学近隣のボランティア活動を確認する。		
				復習	地域活動の参加計画を立てる。		
	第 10 回	内容	地域で活躍する方々の講話①	予習	HP 等で活動の概要を確認する。		
				復習	活動の特徴を整理する。		
	第 11 回	内容	地域で活躍する方々の講話②	予習	HP 等で活動の概要を確認する。		
				復習	活動の特徴を整理する。		
	第 12 回	内容	地域で活躍する方々の講話③	予習	HP 等で活動の概要を確認する。		
				復習	活動の特徴を整理する。		
	第 13 回	内容	地域で活躍する方々の講話④	予習	HP 等で活動の概要を確認する。		
				復習	活動の特徴を整理する。		
	第 14 回	内容	夏休み期間の活動について	予習	活動先と活動内容を確認する。		
				復習	夏休み中の活動の注意事項を確認する。		
	第 15 回	内容	まとめ	予習	講義内容を振り返り、疑問点を整理する。		
				復習	レポートを作成し、提出する。		
	第 16 回	内容	夏休み期間の活動の振り返り	予習	夏休み中の活動をレポートにまとめる。		
				復習	他の学生の活動からの学びを整理する。		
	第 17 回	内容	地域での活動計画と活動概要の確認①	予習	活動先と活動内容を確認する。		
				復習	活動先に事前連絡し、当日の確認をする。		
	第 18 回	内容	活動の振り返り①	予習	活動内容の振り返りをレポートにまとめる。		
				復習	他の学生の活動からの学びを整理する。		
	第 19 回	内容	地域での活動計画と活動概要の確認②	予習	活動先と活動内容を確認する。		
				復習	活動先に事前連絡し、当日の確認をする。		
	第 20 回	内容	活動の振り返り②	予習	活動内容の振り返りをレポートにまとめる。		
				復習	他の学生の活動からの学びを整理する。		

授 業 計 画	第 21 回	内容	地域での活動計画と活動概要の確認③	予習	活動先と活動内容を確認する。
				復習	活動先に事前連絡し、当日の確認をする。
	第 22 回	内容	活動の振り返り③	予習	活動内容の振り返りをレポートにまとめる。
				復習	他の学生の活動からの学びを整理する。
	第 23 回	内容	地域での活動計画と活動概要の確認④	予習	活動内容の振り返りをレポートにまとめる。
				復習	活動先に事前連絡し、当日の確認をする。
	第 24 回	内容	活動の振り返り④	予習	活動内容の振り返りをレポートにまとめる。
				復習	他の学生の活動からの学びを整理する。
	第 25 回	内容	地域での活動計画と活動概要の確認⑤	予習	活動先と活動内容を確認する。
				復習	活動先に事前連絡し、当日の確認をする。
	第 26 回	内容	活動の振り返り⑤	予習	活動内容の振り返りをレポートにまとめる。
				復習	他の学生の活動からの学びを整理する。
	第 27 回	内容	全体の活動の振り返り①	予習	活動のレポートをファイルにまとめる。
				復習	授業全体を振り返り、学んだことを整理する。
	第 28 回	内容	全体の活動の振り返り②	予習	レポートの課題を確認する。
				復習	課題ごとに活動を振り返り、整理する。
第 29 回	内容	レポート作成	予習	レポートの作成の準備をする。	
			復習	レポートを作成し、提出する。	
第 30 回	内容	まとめ	予習	地域活動での学びを整理する。	
			復習	次年度に向けた課題を整理する。	
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	
課題へのフィードバック	レポートにコメントをして返却する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（ 6 0 ％）、授業態度（ 4 0 ％）				
教科書	なし				
参考文献	なし				
注意事項	・本科目は卒業要件である。 ・活動は、土・日・祝日と長期休暇中に行う。 ・指定回数の活動への参加と、活動の振り返りのためのレポート提出が求められる。 ・「駅ボランティア体験会」（11 月に本学で実施予定）への参加を必修とする。				

科 目 名	インターンシップⅠ		単 位 数	2	実務経験	担当教員 はしもと ようこ 橋本 洋子
ナンバリングコード	SWS22107		授業形態	実習	有・無	
授 業 の 内 容	インターンシップ（就業体験）は学外実習のひとつであり、様々な分野の企業等の就業体験を通して職業理解を深め、広い視野をもつことができる。この授業は長期休業期間等を利用して実施されるインターンシップ実習、および事前事後指導からなる。実務体験を通して、自身の職業適性、社会人に求められる基礎学力、キャリア形成を考える絶好の機会である。					
到 達 目 標	1. 授業を通して社会人として必要なビジネスマナーを習得している。 2. 修業体験を通して仕事への責任感を持つことができる。 3. 就業体験を通して自己の課題に気づき自主的に行動することができる。					
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４・５・６・７）地域保育学科（１・②・③・４・⑤）文化表現学科（１・２・３・４）					
授 業 計 画	第１回	内容	ガイダンス① インターンシップ実習の意義と概要	予習	インターンシップとはなにか考える	
				復習	インターンシップの意義を理解する	
	第２回	内容	ガイダンス② インターンシップ報告会 （前回実習参加学生の体験発表）	予習	インターンシップで学ぶ内容を考える	
				復習	先輩等の体験報告をまとめる	
	第３回	内容	インターンシップへの心構え 受入事業体の職種・業務内容の理解	予習	事業体の職種、仕事内容を調べておく	
				復習	希望する実習先について調べる	
	第４回	内容	インターンシップ実習への申込手続き 事業体の選定・実習申込書の作成	予習	実習で学びたいことを考える	
				復習	必要書類をまとめる	
	第５回	内容	学内選考（書類提出・面談）	予習	選定した実習先について調べる	
				復習	書類を精読する	
	第６回	内容	実習先の決定、書類の配布	予習	実習先の職務内容を理解する	
				復習	必要書類に記入する	
	第７回	内容	事前指導① 実習の目的、目標設定、手続き	予習	実習の目標を考える	
				復習	調査書の下書きをする	
	第８回	内容	事前指導② 調査書、承諾書等書類の作成および提出	予習	必要書類を揃える	
				復習	必要書類を確認する	
	第９回	内容	事前指導③ 社会人としての基本マナーを学ぶ	予習	テキスト、配布資料を精読する	
				復習	テキストを読み返す	
	第１０回	内容	事前指導④ オリエンテーションについて 日誌の書き方	予習	オリエンテーションの意義を考える	
				復習	実習先への連絡方法を確認する	
	第１１回	内容	事前指導⑤ 実習中の注意事項	予習	日誌の必要箇所を記入する	
				復習	実習に必要な書類を確認する	
	第１２回	内容	就業体験（現場での実務体験）５～１４日 （事業体によって実習時期・期間は異なる）	予習	実習先からの注意事項を確認する	
				復習	学んだことを日誌に記録する	
	第１３回	内容	事後指導① 記録の提出、報告書の作成・提出	予習	実習を振り返り報告書にまとめる	
				復習	報告会の準備をする	
	第１４回	内容	事後指導② 面談、実習報告会の準備	予習	学んだことをまとめておく	
				復習	面談を通して学びを振り返る	
	第１５回	内容	事後指導③ インターンシップ報告会	予習	発表の準備をする	
				復習	インターンシップで学んだことを確認する	
予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題について毎授業で確認し説明する。事後指導にて講評する。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 実習（６０％）、課題・記録（２０％）、授業態度（２０％）					
教科書	『新編 ワークで学ぶ インターンシップ・リテラシー』（長谷川文代 編、西文社）					
参考文献	必要に応じて紹介する。					

注意事項	インターンシップは保育実習では体験できない一般企業をはじめ様々な事業体での就業体験である。積極的にチャレンジして欲しい。ただし、以下の注意事項を厳守すること。事業体によって実習の時期および期間が異なるため、詳細は授業内で説明する。 1. 学外でのインターンシップ実習にはこの授業を履修、出席することが条件である。 2. 実習に必要な手続きをはじめ事前・事後指導を行うので授業の無断欠席は派遣を中止する場合もある。 3. 実習の派遣は、書類の提出および面談の上、決定する。 4. 履修態度、必要書類の提出等に問題がある場合は履修を取り止めることもある。
------	--

科 目 名	インターンシップⅡ		単 位 数	2	実務経験	担当教員 はしもと ようこ 橋本 洋子
ナンバリングコード	SWS22207		授業形態	実習	有・無	
授 業 の 内 容	インターンシップ（就業体験）は学外実習のひとつであり、様々な分野の企業等の就業体験を通して職業理解を深め、広い視野をもつことができる。この授業は長期休業期間等を利用して実施されるインターンシップ実習、および事前事後指導からなる。実務体験を通して、自身の職業適性、社会人に求められる基礎学力、キャリア形成を考える絶好の機会である。					
到 達 目 標	1. 授業を通して社会人として必要なビジネスマナーを習得している。 2. 修業体験を通して仕事への責任感を持つことができる。 3. 就業体験を通して自己の課題に気づき自主的に行動することができる。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（1・②・③・4・⑤）文化表現学科（1・2・3・4）					
授 業 計 画	第1回	内容	ガイダンス① インターンシップ実習の意義と概要	予習	インターンシップとはなにか考える	
				復習	インターンシップの意義を理解する	
	第2回	内容	ガイダンス② インターンシップ報告会 （前回実習参加学生の体験発表）	予習	インターンシップで学ぶ内容を考える	
				復習	先輩等の体験報告をまとめる	
	第3回	内容	インターンシップへの心構え 受入事業体の職種・業務内容の理解	予習	事業体の職種、仕事内容を調べておく	
				復習	希望する実習先について調べる	
	第4回	内容	インターンシップ実習への申込手続き 事業体の選定・実習申込書の作成	予習	実習で学びたいことを考える	
				復習	必要書類をまとめる	
	第5回	内容	学内選考（書類提出・面談）	予習	選定した実習先について調べる	
				復習	書類を精読する	
	第6回	内容	実習先の決定、書類の配布	予習	実習先の職務内容を理解する	
				復習	必要書類に記入する	
	第7回	内容	事前指導① 実習の目的、目標設定、手続き	予習	実習の目標を考える	
				復習	調査書の下書きをする	
	第8回	内容	事前指導② 調査書、承諾書等書類の作成および提出	予習	必要書類を揃える	
				復習	必要書類を確認する	
	第9回	内容	事前指導③ 社会人としての基本マナーを学ぶ	予習	テキスト、配布資料を精読する	
				復習	テキストを読み返す	
	第10回	内容	事前指導④ オリエンテーションについて 日誌の書き方	予習	オリエンテーションの意義を考える	
				復習	実習先への連絡方法を確認する	
	第11回	内容	事前指導⑤ 実習中の注意事項	予習	日誌の必要箇所を記入する	
				復習	実習に必要な書類を確認する	
	第12回	内容	就業体験（現場での実務体験）5～14日 （事業体によって実習時期・期間は異なる）	予習	実習先からの注意事項を確認する	
				復習	学んだことを日誌に記録する	
	第13回	内容	事後指導① 記録の提出、報告書の作成・提出	予習	実習を振り返り報告書にまとめる	
				復習	報告会の準備をする	
	第14回	内容	事後指導② 面談、実習報告会の準備	予習	学んだことをまとめておく	
				復習	面談を通して学びを振り返る	
	第15回	内容	事後指導③ インターンシップ報告会	予習	発表の準備をする	
				復習	インターンシップで学んだことを確認する	
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題について毎授業で確認し説明する。事後指導にて講評する。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 実習（60％）、課題・記録（20％）、授業態度（20％）					
教科書	『新編 ワークで学ぶ インターンシップ・リテラシー』（長谷川文代 編、西文社）					
参考文献	必要に応じて紹介する。					

注意事項	インターンシップは保育実習では体験できない一般企業をはじめ様々な事業体での就業体験である。積極的にチャレンジして欲しい。ただし、以下の注意事項を厳守すること。事業体によって実習の時期および期間が異なるため、詳細は授業内で説明する。 1. 学外でのインターンシップ実習にはこの授業を履修、出席することが条件である。 2. 実習に必要な手続きをはじめ事前・事後指導を行うので授業の無断欠席は派遣を中止する場合もある。 3. 実習の派遣は、書類の提出および面談の上、決定する。 4. 履修態度、必要書類の提出等に問題がある場合は履修を取り止めることもある。
------	--

科 目 名	レクリエーション論		単 位 数	2	実務経験	担当教員	しん どのぶゆき 新戸 信之
ナンバリングコード	HES22101		授業形態	講義	有・無		
授 業 の 内 容	楽しみを持って行う全ての活動は「レクリエーション」であり、決して特別な活動を指す言葉ではない。しかし、他者を楽しませる為には特別なスキルが必要となる。 本講義では、楽しむことの必要性を理解するとともに、楽しませるために必要な知識と技術を習得する。						
到 達 目 標	1. 「レクリエーション」とは即ち“笑顔を作ること”であり、特別な活動ではないことを理解している。 2. 効率良く、効果的にプログラムを展開する方法について理解している。 3. 内発的な動機付けにより活動を促す原理について理解している。 4. 簡単なイベントを企画立案することができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科 ①②③・4・5）文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第 1 回	内容	オリエンテーション 自由とレクリエーション	予習	シラバスの確認 「自由」とは何か考える		
				復習	「レクリエーション」とは何か考える		
	第 2 回	内容	レクリエーションの意義 伝統・文化の中の“レクリエーション”	予習	「レクリエーション」の必要性を考える		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 3 回	内容	レクリエーション運動の展開	予習	レクリエーションが広がった理由を考える		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 4 回	内容	領域別レクリエーション	予習	レクリエーションはどのような場所で行われているか考える。		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 5 回	内容	ライフスタイルとレクリエーション	予習	どのような人がどのようなレクリエーション活動を行っているか考える		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 6 回	内容	レクリエーション支援の構造と役割	予習	レクリエーション支援は誰が誰にどのようにして行われているか考える		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 7 回	内容	健康スポーツとレクリエーション	予習	健康・スポーツとレクリエーションとの関係を考える		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 8 回	内容	レクリエーションの価値とニーズ 財の分類	予習	レクリエーション活動のニーズとその価値について考える		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 9 回	内容	レクリエーション行動のメカニズム	予習	人はなぜレクリエーション活動をするのか？を考える		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 10 回	内容	集団づくりとコミュニケーション グループワーク	予習	人が集う理由を考える		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 11 回	内容	ホスピタリティ グループワーク	予習	ホスピタリティについて検索する		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 12 回	内容	レクリエーション事業の展開	予習	「運動会」というプロジェクトの全体像をイメージする		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 13 回	内容	イベントチラシの作成方法 グループワーク	予習	折り込みチラシやイベントポスターの内容を見ておく		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 14 回	内容	支援プログラム案の作成方法 支援プログラム評価の視点	予習	責任実習で担当してみたい内容をイメージする		
				復習	授業の内容を整理してまとめる		
	第 15 回	内容	まとめ	予習	半期の授業内容をふりかえる		
				復習	「レクリエーション」とは何か。自分なりの答えを出す。		
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業中に行う小テストの解説						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（60％）、レポート・課題（ ）、作品・発表（ ）、実技（ ）、授業態度（40％）						
教科書	『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』（日本レクリエーション協会）						
参考文献							
注意事項							

科 目 名	レクリエーション実技		単 位 数	2	実務経験	担当教員	しん どのぶゆき 新戸 信之
ナンバリングコード	HES22102		授業形態	実技	有・無		
授 業 の 内 容	前期は、コミュニケーションゲームをはじめ、工作、スポーツ、手遊び、パズル、伝承遊びなど、様々なレク財に親しむ。 後期は、日時・場所・対象など、現場に即した状況設定でロールプレイをすることにより、余裕を持って各実習に臨み得るスキルを身につけることを目的とする。						
到 達 目 標	1. 事前情報に即した支援プログラムを作成することができる。 2. 支援現場の状況に応じた対応ができる。 3. 他者の指導を的確に評価することができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科 ①・②・③・4 ⑤ 文化表現学科（1・2・3・4）						
授 業 計 画	第1回	内容	オリエンテーション コミュニケーション・ワーク（個人→グループ）	予習			
				復習			
	第2回	内容	動的グループ・ゲーム	予習			
				復習			
	第3回	内容	静的グループ・ゲーム （グループワーク）	予習			
				復習			
	第4回	内容	イニシアティブ・ゲーム （グループワーク）	予習			
				復習			
	第5回	内容	伝承遊び	予習			
				復習			
	第6回	内容	レクリエーション・スポーツ① 「チャレンジ・ザ・ゲーム」 （グループワーク）	予習			
				復習			
	第7回	内容	レクリエーション・スポーツ② 「ドッジビー」「アルティメット」	予習			
				復習			
	第8回	内容	身近な物を利用して遊ぶ 「新聞紙ファッションショー」 （グループワーク）	予習			
				復習			
	第9回	内容	知的レクリエーション 「クロスワードパズル」「Hit&Blow」 「ナンバープレイス」「五目並べ」	予習			
				復習			
	第10回	内容	身体的レクリエーション① 「バドミントン」	予習			
				復習			
	第11回	内容	身体的レクリエーション② 「ソフトバレーボール」「ビーチボール」 「インディアカ」	予習			
				復習			
	第12回	内容	創造的レクリエーション（絵画）	予習			
				復習			
	第13回	内容	創造的レクリエーション財（造形）	予習			
				復習			
	第14回	内容	スマートフォンを利用して遊ぶ① 「SNS フォトコンテスト」	予習			
				復習			
	第15回	内容	スマートフォンを利用して遊ぶ② 「フォトラリー」	予習			
				復習			
	第16回	内容	グループ・ワーク・トレーニング （グループワーク）	予習			
				復習			
	第17回	内容	支援プログラム案の作成 （グループワーク）	予習			
				復習			
	第18回	内容	支援プログラム案の作成 （グループワーク）	予習			
				復習			

	第19回	内容	リハーサル グループワーク	予習	
				復習	
	第20回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループA	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
授 業 計 画	第21回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループB	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
	第22回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループC	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
	第23回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループD	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
	第24回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループE	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
	第25回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループF	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
	第26回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループG	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
	第27回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループH	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
	第28回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループI	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
	第29回	内容	ロールプレイによるレクリエーション支援発表 グループJ	予習	
			(発表、相互評価)	復習	
	第30回	内容	まとめ	予習	
				復習	
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	前期：授業の最後に指導上のポイントや留意点を伝える。 後期：支援発表後にアドバイスをする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（20%）、作品・発表（50%）、実技（10%）、授業態度（20%）				
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 特になし				
参考文献	『楽しさをとおした心の元気づくり』（日本レクリエーション教会、日本レクリエーション教会） 『ミックスじゅーちゅ（子どもの遊びポータルサイト）』（ https://45mix.net/ ）				
注意事項	作品（画像）の提出や、小テスト、後期の他者評価についてはスマートフォンとMOODLE（LMS）を利用します。				

科 目 名	児童館実習	単 位 数	2	実務経験	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
ナンバリングコード	SWS22208	授業形態	実習	①有・無		
授 業 の 内 容	児童館において、約 10 日間の実習を行う。実習を通して、児童館・放課後児童クラブの現場で実際に業務を体験することで、児童館や放課後児童クラブの活動を理解するとともに、自分自身の適性を改めて見つめなおす。					
到 達 目 標	1．児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解している。 2．一日の活動プログラムを理解している。 3．職員、児童の家族、地域社会の連携を理解している。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（1・2・3・4・⑤）文化表現学科（1・2・3・4）					
授 業 計 画	児童館実習の内容 ① 児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解 ② 一日の活動プログラムの理解 ・母親クラブの活動について ・館全体のプログラム ・放課後児童クラブのプログラム ③ 活動への参加 ・指導職員の助手の立場に立って、参加実習から、実習後半では部分指導実習、責任担当実習に入る。 ④ 職員、児童の家族、地域社会との関係の学習 ・職員集団等専門家集団のチームワーク ・児童の家庭、地域との関わり方 ・児童館と高齢者・ボランティア等の関わりを学ぶ					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：実習先評価（50%）、実習記録（30%）、実習課題（20%）					
教科書	なし					
参考文献	なし					
注意事項						

科 目 名	児童館実習指導		単 位 数	1	実務経験	担当教員 あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード	SWS22210		授業形態	演習	有・無	
授 業 の 内 容	児童館実習を履修する学生は必ず履修しなければならない。授業は実習の前後にわたって実施される。実習前の授業では、児童館・放課後児童クラブの実際の活動内容を理解するため、先輩の実習報告を参考に理解を深め、実習への動機付けを図る。その上で実習調査書の作成をはじめ、実習の目的やねらいの理解、オリエンテーション、日誌の記入方法、実習手続き書類の作成等の指導を行う。					
到 達 目 標	1．児童館実習の意義を理解する。 2．児童館実習に必要な知識と技能を習得する。 3．児童館、放課後児童クラブの特性と実習における課題を理解する。					
学位授与方針	幼児教育学科（1・2・3・4・5・6・7）地域保育学科（1・2・3・4・⑤）文化表現学科（1・2・3・4）					
授 業 計 画	第 1 回	内容	児童厚生員－資格の説明と取得までの手順の説明	予習	シラバスを読んでおく	
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第 2 回	内容	児童館実習参加申込書の配布と申込書の提出	予習	実習のしおりを読み要件を理解しておく	
				復習	実習準備についてまとめる	
	第 3 回	内容	児童館実習の意義、目的の理解	予習	実習の意義について教科書を読んでおく	
				復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第 4 回	内容	児童館実習参加者の体験談を聞き、実習内容を理解する	予習	教科書「実習内容」の章を読んでおく	
				復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第 5 回	内容	文章の書き方を学ぶ	予習	前回の体験談の感想を書いてくる	
				復習	添削結果を受けて反省点を考える	
	第 6 回	内容	調査書の作成－下書き準備	予習	実習先について調べてくる	
				復習	注意事項を確認し、内容を考える	
	第 7 回	内容	調査書の作成－下書き・証明写真説明	予習	調査書の下書きをしてくる	
				復習	書類の添削を受けて、訂正をする	
	第 8 回	内容	調査書の作成－清書	予習	証明写真の注意事項を理解し、準備する	
				復習	清書を完成させる	
	第 9 回	内容	実習日誌の記入の意義について	予習	教科書「実習日誌の意義」の章を読んでおく	
				復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第 10 回	内容	実習日誌の記入方法	予習	教科書「実習日誌の注意」の章を読んでおく	
				復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第 11 回	内容	オリエンテーションについて	予習	教科書「オリエンテーション」の章を読む	
				復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第 12 回	内容	指導案の概要と作成	予習	教科書「指導案」の章を読んでおく	
				復習	指導案のための情報を集める	
	第 13 回	内容	細菌検査・個人情報誓約書について	予習	教科書「個人情報取り扱い」の章を読む	
				復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第 14 回	内容	実習後の対応・礼状等－について	予習	教科書「お礼状」の章を読んでおく	
				復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第 15 回	内容	実習直前指導（実習への心構え、緊急時への対応の確認等々）	予習	実習前の質問事項を確認してくる	
				復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る	
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	提出物等の評価を面談により伝える。					
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 課題（30%）授業態度（70%）					
教科書	『保育・教育・施設実習 子どもを理解し実践できる保育者を目指して』（福田真奈、五十嵐淳子、大学図書出版）					
参考文献	なし					
注意事項						

(添付資料)

【地域保育学科】

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧

(シラバスリンク：新カリキュラム)

https://www.akikusa.ac.jp/akitan/wordpress/wp-content/themes/akikusaTheme/assets/pdf/ch_syllabus_2019_new.pdf#pagemode=bookmarks

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	土屋	本年度配当無し
2	施設実習	2	実習	秋山	本年度配当無し
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	土屋	本年度配当無し
4	児童館実習	2	実習	秋山	47
5	教育実習Ⅰ	2	実習	利根川	本年度配当無し
6	教育実習Ⅱ	2	実習	利根川	本年度配当無し
計		12			

(シラバスリンク：旧カリキュラム)

https://www.akikusa.ac.jp/akitan/wordpress/wp-content/themes/akikusaTheme/assets/pdf/ch_syllabus_2019_old.pdf#pagemode=bookmarks

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	土屋	51
2	施設実習	2	実習	秋山	52
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	土屋	53
4	児童館実習	2	実習	秋山	本年度配当無し
5	幼児教育実習	4	実習	利根川	67
計		12			

注) 「実務経験のある教員等による授業科目」とは、担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は対象とはならないことに注意すること。また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目もこれに含む。必修科目、選択科目又は自由科目の別を問わない。